

# 令和4（2023年）年度事業報告書

学校法人 都築学園

令和4年 4月 1日～令和5年 3月31日

## 1 学校法人の概要

### (1) 基本情報

ア 学校法人 都築学園

イ 〒815-8511 福岡県福岡市南区玉川町2番1号

TEL 092 (541) 0161 (代)

FAX 092 (511) 5229

### (2) 建学の精神

学校法人都築学園の建学の精神は「個性の伸展による人生練磨」です。

「個性」とは、他とは区別される特徴的長所、美点、得意面を意味し、仏教で謂う“第一義諦”です。初等、中等教育の段階においては、生得的性格、資質、天賦の才能等を指しており、高等教育の段階においては、さらに進化し、「個性」すなわち「専門性」として、より高度化された学問的、実践的領域や分野を「個性」として位置付けています。

専門性に集中、特化する教育を基本とし、教養教育だけでなく、高度専門職、そして天職として自己の人生の社会的使命を自覚することを目指しており、「個性の伸展による人生練磨」は学校教育のみに終わることなく、生涯を通して自己実現を達成していく建学の精神です。

さらには、「個性の伸展による人生練磨」とは、人間一人ひとりの個性に始まり、各学校の個性、地域の個性そして国の個性を発揮し、世界に貢献することを目指しています。

### (3) 学校法人の沿革

昭和	31. 4	学校法人高宮学園創立（福岡第一高等学校）
	35. 1	第一薬科大学設置
	41. 4	福岡第一商業学校設置
		みやこ幼稚園設置
	52. 1	せふり幼稚園設置
	55. 4	法人名を「学校法人都築高宮学園」に名称変更
	60.10	法人名を「学校法人都築学園」に名称変更
平成	1. 3	第一自動車整備専門学校設置
		東京簿記情報ビジネス専門学校設置
	7. 4	福岡第一商業高等学校を「第一経済大学附属高等学校」に校名変更
	8. 4	大阪科学工業専門学校設置
	9. 4	東京簿記情報ビジネス専門学校を「東京マルチメディア専門学校」に校名変更
	12. 4	大阪科学工業専門学校を「大阪デジタルテクノ専門学校」に校名変更
	12. 4	関東リハビリテーション専門学校設置
	15. 4	第一医療リハビリテーション専門学校設置
	19. 4	第一経済大学附属高等学校を「第一薬科大学附属高等学校」に校名変更
	20.10	学校法人都築インターナショナル学園（日本薬科大学、東京介護福祉専門学校、お茶の水はりきゅう専門学校）及び学校法人姫路学院（近畿医療福祉大学）を吸収合併認可
	21. 4	第一医療リハビリテーション専門学校を「福岡天神医療リハビリ専門学校」に校名変更
	22. 4	近畿医療福祉大学 大阪キャンパス開設
	23. 1	東京介護福祉専門学校廃止
	23. 4	日本薬科大学学科設置（薬学部薬学科、医療ビジ初薬科学科）
		日本薬科大学お茶の水キャンパス開設
		大阪デジタルテクノ専門学校廃止
	25. 4	近畿医療福祉大学を「神戸医療福祉大学」に校名変更
	27. 4	第一自動車整備専門学校を「専門学校第一自動車大学校」に校名変更
	28. 4	第一薬科大学学科設置（漢方薬学科）
	29. 4	名古屋デジタル工科専門学校及び名古屋デジタル・アート専門学校を都築俊英学園から都築学園に設置者変更

令和	2. 3	名古屋デジタル・アート専門学校廃止
	2. 4	日本薬科大学大学院（薬学研究科）設置
		第一薬科大学看護学部設置
		神戸医療福祉大学 社会福祉学部を「人間社会学部」に学部名変更
		名古屋デジタル工科専門学校を「名古屋未来工科専門学校」に校名変更
	3. 4	第一薬科大学大学院（薬学研究科）設置
	4. 4	第一薬科大学薬学部薬科学科設置
		神戸医療福祉大学を「神戸医療未来大学」に校名変更
		神戸医療未来大学 社会福祉学科を「未来社会学科」へ学科名変更
		第一薬科大学附属高等学校 商業科を「A I ビジネス科」へ科名変更
		東京マルチメディア専門学校を「東京マルチ・A I 専門学校」に校名変更
せふり幼稚園・保育園を「さわらサクラ幼稚園・保育園」に園名変更		

## (4) 設置する学校・学部・学科等の学生

(R4.5.1 現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
第一薬科大学	大学院 薬学研究科	2	1	4	2
	薬学部	183	138	1,048	887
	薬学科	113	108	678	681
	漢方薬学科	40	23	340	194
	薬科学科	30	7	30	12
	看護学部 看護学科	80	84	240	233
日本薬科大学	大学院 薬学研究科	3	2	9	13
	薬学部	360	253	1,940	1,486
	薬学科	240	167	1,520	1,130
	医療ビジネス初薬科学科	120	86	420	356
神戸医療 未来大学	人間社会学部	400	161	1,600	957
	未来社会学科	120	25	530	198
	健康スポーツコミュニケーション学科	180	80	610	360
	経営福祉ビジネス学科	100	56	460	399
福岡第一高校	全日制課程	760	676	2,280	1,867
第一薬科大学付 属高校	全日制課程	300	177	720	480
	通信制課程	500	97	1,500	445
みやこ幼稚園		—	56	140	138
さくらサクラ幼稚園		—	12	120	50
さくらサクラ保育園		—	5	19	9
専門学校第一自 動車大学校	工業専門課程	155	107	320	164
東京マルチ・AI 専 門学校	商業実務専門課程	155	93	525	227
	文化教養専門課程	50			
	工業専門課程	60			
関東リハビリテーション 専門学校	医療専門課程	80	45	240	151
福岡天神医療リハ ビリ専門学校	医療専門課程	140	147	420	318
お茶の水はりき ゆう専門学校	医療専門課程	56	56	168	155
名古屋未来工科 専門学校	工業専門課程	160	92	320	242
合 計		3444	2,202	11,613	7,824

(R5. 5. 1 現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
第一薬科大学	大学院 薬学研究科	2	0	6	2
	薬学部	183	136	1,058	847
	薬学科	113	116	678	657
	漢方薬学科	40	15	320	163
	薬科学科	30	5	60	27
	看護学部 看護学科	80	56	320	279
日本薬科大学	大学院 薬学研究科	3	3	12	16
	薬学部	360	224	1,950	1427
	薬学科	240	155	1,500	1091
	医療ビジネス初薬科学科	120	69	420	336
神戸医療 未来大学	人間社会学部	400	169	1,600	804
	未来社会学科	120	18	480	150
	健康スポーツコミュニケーション学科	180	74	690	327
	経営デジタルビジネス学科	100	77	430	327
福岡第一高校	全日制課程	760	711	2,280	1911
第一薬科大学付 属高校	全日制課程	300	232	810	536
	通信制課程	500	125	1,500	585
みやこ幼稚園		—	43	140	127
さわらサクラ幼稚園		—	19	120	51
さわらサクラ保育園		—	9	19	12
専門学校第一自 動車大学校	工業専門課程	155	95	310	165
東京マルチ・AI 専 門学校	商業実務専門課程	155	118	525	192
	文化教養専門課程	50			
	工業専門課程	60			
関東リハビリテーション 専門学校	医療専門課程	80	54	240	147
福岡天神医療リハ ビリ専門学校	医療専門課程	140	138	420	355
お茶の水はりき ゆう専門学校	医療専門課程	56	56	168	160
名古屋未来工科 専門学校	工業専門課程	160	70	320	158
合 計		3,444	2,258	11,798	7,774

## (5) 各学校の所在地

学校名		住 所
第一薬科大学		福岡県福岡市南区玉川町2-2-1
日本薬科大学	さいたまキャンパス	埼玉県北足立郡伊奈町小室10281
	お茶の水キャンパス	東京都文京区湯島3-15-9
神戸医療未来大学	姫路キャンパス	兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5
	大阪天王寺キャンパス	大阪府天王寺区烏ヶ辻2-1-4
福岡第一高校		福岡県福岡市南区玉川町2-2-1
第一薬科大学付属高校		福岡県福岡市南区玉川町2-2-1
みやこ幼稚園		福岡県福岡市南区塩原3-8-21
さわらサクラ幼稚園・保育園		福岡県福岡市早良区四箇田団地6-1
専門学校第一自動車大学校		福岡県福岡市博多区東光2-14-12
東京マルチ・AI専門学校		東京都新宿区百人町1-13-16
関東リハビリテーション専門学校		東京都立川市錦町6-2-9
福岡天神医療リハビリ専門学校		福岡県福岡市中央区渡辺通4-3-7
お茶の水はりきゅう専門学校		東京都文京区湯島1-3-6
名古屋未来工科専門学校		愛知県名古屋市中村区椿町13-7

(6) 役員・評議員

ア 理事 (定数は5人以上7人以内 現員6人)

職	氏名	就任年月日	現職等
理事長	都 築 仁 子	H16. 11. 1	(第一薬科大学学長)
理事	鎌 田 積	R5. 4. 1	(神戸医療未来大学学長)
理事	都 築 明寿香	H20. 2. 1	(東京マルチ・AI専門学校校長)
理事	森 口 浩 二	R 1. 5. 1	(都築学園事務局長)
理事	山 田 メユミ	R 1. 10. 1	(株式会社 取締役)
理事	田 村 靖 邦	R 3. 4. 1	(名誉官司)

イ 監事 (定数は2人 現員2人)

職	氏名	就任年月日	現職等
監事	木 下 亮	H31. 2. 20	(税理士)
監事	脇 田 美 徳	R 4. 10. 1	

ウ 評議員 (定数は15人以上26人以内 現員17人)

職	氏名	就任年月日
評議員	都 築 仁 子	S60. 12. 10
評議員	都 築 明寿香	H18. 5. 15
評議員	江 崎 久	R5. 4. 1
評議員	岸 川 良 子	H24. 4. 1
評議員	吉 武 毅 人	H18. 5. 15
評議員	都 築 稔	H14. 8. 1
評議員	秋 山 博	R 4. 4. 1
評議員	小 松 生 明	R 5. 4. 1
評議員	都 築 美紀枝	H17. 7. 16
評議員	千 葉 輝 正	R 5. 4. 1
評議員	鎌 田 積	R 5. 4. 1
評議員	乳 井 卓 吉	H21. 1. 5
評議員	椿 信 二	H24. 4. 1
評議員	田 中 淳	H24. 4. 1
評議員	田 平 裕 隆	H28. 4. 1
評議員	森 口 浩 二	H28. 4. 1
評議員	山 田 メユミ	R 1. 10. 1

## (7) 教職員数

(R5. 5. 1 現在)

大 学 等	教員数	事務職員数
第一薬科大学	80	33
日本薬科大学	69	71
神戸医療未来大学	48	35
福岡第一高校	61	26
第一薬科大学附属高校	25	6
みやこ幼稚園	9	2
さわらサクラ幼稚園・保育園	12	3
第一自動車大学校	8	4
東京マルチ・A I 専門学校	18	5
関東リハビリテーション専門学校	13	8
福岡天神医療リハビリ専門学校	25	9
お茶の水はりきゅう専門学校	10	6
名古屋未来工科専門学校	9	5
法人本部	—	21
合 計	387	234

- ・平均年齢 教 員 48.8才  
事務職員 52.6才

## 2 事業の概要

### (1) 主な教育・研究の概要

#### ア 第一薬科大学

##### (ア) 教育

###### a 3つのポリシーに基づく教育の質的向上

平成29年(2017年)4月施行の学校教育法施行規則改正に伴い策定した3つのポリシーに基づいた教育の推進のため、ルーブリックを始めとする教育効果測定方法の策定を進めている。本学では「個性の伸展による人生練磨」を建学の精神として掲げ、その目的及び使命を学則に定めている。これを具現化するために学部学科ごとに教育目標を定めている。令和4年度より薬学部は3つのポリシーについて改訂し、新カリキュラムにより講義・演習等の教育を展開することに伴い、学生教育を進めている。また、自己点検・評価機能を強化し、平成30年度に受審した薬学教育評価機構による指摘事項を確実に改善し、令和4年度末に薬学教育評価再評価改善報告書を提出し令和5年度の薬学教育評価再評価を受審する。

###### b 入学者選抜

(a) 入学者選抜試験の実施に際して、選抜試験作題担当者は過去の出題傾向を踏まえて選抜試験問題を作成し、適正かつ公正に実施する体制を整えている。

(b) 令和5年度の総合型選抜試験及び学校推薦型選抜試験(特待生推薦・一般推薦)では口頭試問を含む面接試験を実施し、学校推薦型選抜試験(公募制)はマークシート方式の学力試験とともに面接を行った。基礎学力と医療人として活躍できる人材を評価するため、各試験(大学共通テストを除く。)で面接を導入し総合的に評価して入学者の選抜にあっている。

###### c 初年次教育による就学基盤の確立

(a) 早期入学予定者に対しては、入学前学習指導(基礎科目の添削プログラム)やスクーリング(薬学部は2回、看護学部は1回)を開催した。

(b) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、令和3年度については、フレッシュマンセミナーは薬学部と看護学部合同により学内で研修会を計画し実施したが、令和4年度は、感染者数が少なかったことから、感染防止に努めて従来通りに各部署ごとに実施し、薬学部は福岡県の英彦山青年の家を利用して1泊2日、看護学部は太宰府天満宮や九州国立博物館の施設で1日の計画で研修を実施した。学部毎に学生リーダーを募集し、学生リーダー計画のもと研修を行い計画した各種イベントで学生同士が協力することで同級生と上級生とで親睦を深めることができた。

(c) 薬学部では、新入生の化学、生物、数学・物理の習得度について、昨年同様、薬学ゼミナールのプレイスメントテストを利用し、基礎学力を確認した。令和3年度は後期を含めて2回実施したが、令和4年度は日程が取れずに1回のみの実施した。

###### d カリキュラムの検証

(a) 令和3年度の科目構成の点検を行い、令和4年度から教育目標にあったカリキュラムに変更し、講義、演習、実習を行っている。今後も教養・専門科目が適切に配置されているか検証を行う。

**(b) 薬学部（6年制）**

薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂）に基づき教務委員会内に新カリキュラム編成小委員会を設置し改訂作業を進めている。令和6年度からの開始に向け準備を進める。

**e 看護学部教育体制の充実**

**(a) 看護学部教育実習**

1年生85名（新入生84名）、2年生77名、3年生71名である。1年次の基礎看護実習Ⅰ、2年次の基礎看護実習Ⅱ、3年次の領域別実習については、コロナ禍で、学外実習を履行できなかった場合は学内に変えて実習を行った。今後も、状況に応じた柔軟な対応が必要である。

**(b) 保健師課程、助産師課程**

2年次に選抜された保健師課程10名・助産師課程5名の学生は、3年次の領域別実習後に集中講義実施後定期試験を実施した。

**(c) 国家試験対策**

模擬試験の実施により学生個人の学力レベルの確認を行った。

令和5年度は通年での計画的な模擬試験の実施と不得意分野の対策講座に加え外部機関による夏・冬季講座の案内を行い合格に向けた更なる施策を行う。

**f 大学院教育体制の充実**

大学院開設2年目の履行しており、定員2名（収容定員8名）で1年生1名社会人入学、2年生1名在籍している。令和4年度も大学院講義担当教員による特論講義、外部講師による大学院特別講義および指導教員の下での薬学演習、課題研究を行った。また、年度末に、2年生の研究生は課題研究の進捗状況について発表した。

**g 薬科学科の開設**

(a) 広範な医療関連分野に対するニーズに対応できる人材の育成を行うため、医療データ科学専攻と生命医科学専攻の2専攻に区分した4年制薬科学科を薬学部を設置した。将来的に、医療系総合大学へ拡大・発展させることを目標に、医療・福祉の向上及び学術の深化に貢献するため、教育研究活動の充実と向上に努めている。

(b) 薬学部薬科学科新設（定員30名）に伴い漢方薬学科の定員を60名から40名に見直した。

(c) 本学、中学教諭1種（理科）、高等学校教諭1種（理科）の教員免許状の所要資格を得るための課程認定申請を行い、令和4年11月25日に認定を受けて、教育開始まで教職課程委員会を設置して準備を進めた。

**h オンライン授業の充実**

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響から講義・演習は対面及びオンラインのハイブリット講義により行ったが、令和4年度は基本的には対面での講義・演習とした。ただし、学生個々の状況（理由）により学校として適切と判断した学生はオンラインによる講義受講について許可している。

**(イ) 研究**

**a 教育研究体制の充実整備**

**(a) 科研費採択数（採択率）の向上**

本学における「競争的資金に関する間接経費取扱内規」、「共同研究取扱内規」、「受託研究取扱内規」及び「外部資金獲得インセンティブ経費配分に関する内規」を定め、研究の促進及び支援に係る全学的な仕組みの整備を行い、科学研究費助成事業の申請を促進した結果、令和4年度においても基盤研究（B、C）で9件、助成事業で1件の採択を受けた。

**(b) アントレプレナーシップ教育**

PARKS (Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem) 事業の一環としてリバネスによる「サイエンス・アントレプレナー入門」を学生、教員、職員に対してオンラインまたは対面により開講した。今後の本学としての外部資金獲得につなげるよう継続する予定である。

**b 研究成果の地域社会への還元**

**(a) 新型コロナウイルス感染症での産業界との連携**

新型コロナウイルス感染症の影響からマスク着用の生活が基本となり、「除菌、抗菌、消臭」効果のある「ハイジエイド」を本学と「東和バイオ」と共同開発した。

**(b) 企業への特許実施許諾**

サフランエキス末アフロロンが臨床試験において「睡眠の質の改善」が確認され「睡眠」「気分」への機能性表示食品として届け出が受理され、その特許において、第一薬科大学と企業（株式会社 SBS）との間で特許実施許諾契約を結び、研究成果を社会に還元している。

**(ウ) 社会貢献および地域連携**

**a 社会貢献・地域貢献の充実**

**(a) 福岡県・福岡市薬剤師会との連携**

○令和4年度 福岡市防災フェアー

開催日時：令和4年11月5日（土）10：00～16：00

場所：マリノアシティ福岡

実施内容：福岡市薬剤師会と連携して「モバイルファーマシーの紹介」と「こども調剤体験」を行い、啓発ブースに参加した。

○第10回 Dr. BUN BUN こども医学部2022

開催日時：令和4年9月25日（日）10：00～16：00

場所：久留米シティプラザ六角堂広場（福岡県久留米市）

実施内容：久留米三井薬剤師会と連携して「モバイルファーマシーの紹介」と「ぶんぶん薬局」ブースに参加した。

**(b) 福岡市南区と包括連携協定**

福岡市南区役所が周辺部に立地する7つの大学・短期大学と合同で実施する小学生向け体験講座のイベントである「南区こども大学」では、本学は下記の内容で開催した。

○南区こども大学2022

講座名：「色が変わるハーブティーを使って色々な液体の性質を調べてみよう！」

開催日時：令和4年7月23日（土）13時から14時

参加者：小学生19名

**(c) 高大連携課題研究発表会**

第5回高校生サイエンス研究発表会 in 第一薬科・日本薬科・横浜薬科大学2023を、オンライン発表会（令和5年3月13日（月）～17日（金）、20日（月）、22日（水）～23日（木））、ポスター発表会（令和5年3月19日（日）：第一薬科大学、令和5年3月21日（火・祝）：日本薬科大学、横浜薬科大学）に31都道府県68校（高校生838名）243演題の参加を得て開催した。

今回は、文部科学省、福岡県・埼玉県教育委員会の後援をいただいた。

**(d) 試験会場としての施設の提供**

薬剤師国家試験の福岡県会場として、また、日本化粧品協会が行う検定試験会場として本学の施設を提供した。

**b 社会貢献・地域貢献の更なる拡大**

**(a) 福岡市災害ボランティアセンター設置・運営訓練**

日程が合わず令和4年度は開催されなかった。令和5年度以降も福岡市や社会福祉協議会と協議して災害ボランティアセンターや中核避難所としての訓練の企画や整備を推進する。

**(b) 防災教育授業・避難所講習会**

次により講師を派遣し講習会等を開催した。

○福岡県立香椎高等学校（防災教育授業講師派遣）

令和4年4月26日（火）：大渡助手

○久留米三井薬剤師会（災害時におけるモバイルファーマシー活用に関する研修会）

令和4年6月26日（日）：小松副学長、窪田教授、大光教授、古賀総務課長

○福岡市南区 長丘公民館（避難所運営講習会：校区70名）

令和4年10月29日（土）：大渡助手

**(c) 薬物乱用防止教育**

九州・沖縄地域44の小学校・中学校・高等学校からの依頼により、講師1名を派遣して薬物乱用防止のための講演を行った。

**(エ) 国際交流**

コロナ禍の影響から令和3年度の国際交流は開催されなかったが、令和4年度に学術交流を行うべく準備を進めた結果、オンラインで次のとおり学術交流会を開催することができた。また、海外薬学研修についても、次のとおり系列大学の日本薬科大学、横浜薬科大学の3校でデュケイン大学への研修会を開催した。

**a 学術交流会の開催**

開催日：令和4年5月28日（土）

交流大学：天津中医薬大学（中国）

開催方法：オンライン

開催内容：コロナ禍における中医学や漢方薬の臨床応用をはじめ、中国や日本でのモバイルファーマシーの活用方法、キャンパスライフ等をお互いにパワー

ポイントを用いて紹介した。

#### b 海外薬学研修

研修期間：令和5年3月17日（金）～3月27日（月）

研修大学：デュケイン大学（アメリカ合衆国ピッツバーグ）

研修内容：薬学研修プログラム（Duquesne University Exchange Program）で本学から薬学部1年生1名が参加し、大学紹介、医療制度、無菌製剤、感染症、公衆衛生等の講義や予防接種、病院見学、薬局見学、学生間交流などのプログラムに参加した。

#### (オ) 募集・広報

##### a 広報活動内容の強化

SNSでの広報活動を強化したことにより、YouTube、Instagram及びTwitterの登録者数が大幅に増加した。特にYouTubeの登録者数は、薬学部を主な学部とする全国の大学のなかで1位となった。ホームページはデザイン性を高めると共に常に最新の情報をトップページに表示させた。薬科学科の広報では、新たに中学校・高等学校理科教職課程が設置されたことの周知に重点を置き、ホームページ、SNS、チラシなど、あらゆる広報媒体を利用して情報を発信した。

##### b オープンキャンパスの創意工夫

来場型、ライブ配信型及びNet型のオープンキャンパスを実施した。ライブ配信型及びNet型については、新たに2次元および3次元のバーチャルフィールドを利用して実施した。いずれのタイプのオープンキャンパスも学生主体で実施し、特に薬学部の説明では、漢方薬学科および薬科学科の魅力や将来性に重点を置いた。参加者数においては、薬学部、看護学部ともに受験対象者の来場型参加者が前年度に比べて大幅に増加した。

##### c 高大連携の強化

高大連携提携校のうち7つの高等学校に講師を派遣し、体験実習、生薬・漢方講義、総合的な探究の時間の発表会審査員などの教育活動支援を行った。

#### (カ) 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等（FD・SD活動）

a FD・SD活動として次のとおり第1回から第3回まで企画・開催した。

(a) 第1回 講習会（令和4年7月1日 16:30～17:30）

演題：「サイバーセキュリティ対策セミナー ～サイバー攻撃と対策～」

講師：牧山 右京 氏（福岡県警察本部 警備部 サイバー攻撃対策隊）

西岡 寛之 氏（警察庁 九州管区警察局 福岡県情報技術解析課）

(b) 第2回 講習会（令和4年7月1日、5日、12日 13:00～16:00）

演題：「一次救命の実践」

講師：香月 正明 先生（本学 臨床薬剤学分野 准教授）

(c) 第3回 講習会（令和4年11月28日 16:30～18:00）

演題：「知って、納得！ 福岡市の消防・防災」

講師：船橋 浩二 氏（福岡市南消防署 予防課）

b 薬学部のFD活動として、「実務実習に係る講習会の開催」、「学生による授業評価

アンケート」および「教員による授業自己評価」を行い、今後も継続して授業内容の改善を図る。

(a) 第4回 講習会 (令和5年1月13日 16:30~18:00)

演題：「令和4年度の実務実習の状況および令和5年度に向けて」

講師：窪田 敏夫先生 (地域医療薬学センター 教授、実務実習委員長)

#### (キ) 学校評価

平成30年度に受審し、「継続評価」となった「薬学教育評価」について、令和4年度に改善報告を実施し、令和5年度に再評価を受審する。今後は、「薬学教育再評価」受審と令和6年度に機関別認証評価受審予定のため全学的な自己点検・評価を実施する。

### イ 日本薬科大学

#### (ア) 教育

##### a 学士課程教育の更なる充実

学生の自立を促す教育を目指し、全授業を録画するなど、多様な学生に合わせたハイフレックス型教育を行った。令和5年度は、教員の教育力をさらに向上するために、年間を通してFDプログラムを実施する。

##### (a) カリキュラム改訂に向けた準備開始

令和6年度からの薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に備えて、6年制学科の新カリキュラムの作成に着手した。令和5年度内の完成を目指す。

##### (b) 学生の自立を育む教育への転換、学外活動の強化

国際化の推進のため、1年次の英語教育においてマンツーマンのオンライン英会話を導入した。学生の満足度も高く、次年度以降も継続して実施する。また、アクティブラーニングを導入するためのFD勉強会を継続的に実施した。

##### (c) 臨床に係る教育研究活動の充実、大学院の充実

臨床教育の学内担当を明確にしたことで、運営の効率性が向上した。また、自治医大さいたま医療センターに教員1名を研修派遣し、同センターの薬剤師による講演を学内開催することで、医療機関との連携を強化した。

##### b 学生支援の充実

###### ・ 学生の主体的な活動の支援

延べ200名以上の学生が地域貢献活動に参加した(令和3年度66名)。学生がキャンパス外での学びを体験し、将来の医療人として必要な多様な他者とのコミュニケーション能力向上を目指している。

また、4年ぶりに学園祭を再開し、新たな部・同好会活動の承認等、学生の課外活動への参画を推奨した。

##### c 就職支援の充実

就職ガイダンスの実施や就職に関するさまざまな相談に対応した。6年制学科では、公務員や大学院進学ガイダンスなど、多様な進路選択の場を提供した。4年制学科では、教育課程内外でインターンシップ等を実施し、学生の自発的な就職活動を促した。その結果、令和4年度は、6年制学科で、病院14名、調剤薬局21名、ドラッグストア23

名、公務員 2 名、製薬 1 名、教育機関 1 名、医薬品専門広告代理店 1 名となり(就職率は 95.5%)、4 年制学科は、病院・クリニック 16 名、調剤薬局 5 名、ドラッグストア 12 名、製薬 1 名、その他 36 名となった(就職率は 98.6%)。また、進学は、6 年制学科 1 名、4 年制学科は 11 名であった。

**e 職業実践力育成プログラム「漢方アロマコース」の充実**

文部科学大臣認定「漢方アロマコース」は、e-ラーニングコースに加え、要望が高い実習・見学を再開し、目標人数を達成することができた。文部科学省の学び直しポータルサイト「マナパス」の閲覧ランキングにおいて、年間を通じて上位にランクされ、学び直しを希望する社会人による高い関心を維持している。また、「漢方プレミアムコース」を開講し、新たな受講生の掘り起こしに着手した。

**(イ) 研究**

**a データサイエンスセンターの本格始動**

令和 4 年度に、文部科学省 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)に薬科大学として初めて認定された。また、教育プログラムに「データサイエンス入門」、「データサイエンス概論」を追加した。研究面でも、ビッグデータ解析のために、新たな解析ツールを使用し、データクレンジング(データの誤記や未入力・重複などの不備を修正)の検討を行った。

**b 外部資金の獲得推進**

科研費応募件数は、令和 3 年度 28 件に対して、令和 4 年度 28 件であった。なお、令和 3 年度の採択者は 5 名、令和 4 年度の採択者は 4 名となっており、令和 2 年度から 3~5 名と継続的に獲得している。寄付金については、教育研究支援をはじめ、学生の修学や環境整備支援として 4 件の寄付を獲得した。今後も外部への働きかけを継続し、寄付金の増加を図る。

**c 地域および外国との共同研究の推進**

自治医科大学さいたま医療センター、さいたま赤十字病院と共同して臨床研究を実施した。中国医薬大学との共同研究は 3 報の論文発表を行った。カタール大学と Qatar-Japan Research Collaboration Application (QJRC 2) を共同申請した。

**(ウ) 大学院(薬学研究科)**

医療機関との連携強化により出願者が増加し、今後の大学院生の確保に向けた参考事例となった。また、次年度の完成年度に向けて、入学 1 期生全員が学位を取得するべく、進捗報告会において指導教員以外の教員も研究指導を行った。

**(エ) 機関別評価受審に向けた準備**

医療ビジネス薬科学科の研究目標を学則に追記し、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの改訂を行った。令和 5 年度の機関別認証評価の受審に際して、令和 5 年 5 月末の自己点検評価書の完成を目指して、自己点検評価書の査読およびエビデンス資料の確認を行っている。

**(オ) 産学官連携・高大連携の強化**

**a 社会貢献活動の推進**

シラバスの各教科科目に SDGs とのつながりを明記し、大学全体で社会貢献への意識

を醸成することを徹底した、12月に東京大学、東洋大学、お茶の水女子大学、日本女子大学とともに「文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会」に参加し、今後の区内大学の連携構築の体制を整備した。

#### **b 地域連携活動への学生の参画**

新たに美里町、神川町、上里町並びに埼玉県教育委員会と連携協定を締結した。これにより24自治体・行政（1区11市10町2教育委員会）と連携したことになる。さらに、埼玉県地域婦人会連合会、エヌ・ティ・ティ・スポーツコミュニティ株式会社（大宮アルディージャ）と連携協定を締結した。

#### **(カ) 国際交流活動の深化**

4年制学科に新設した韓国薬学コースの充実を目指して、韓国・圓光大学と連携協定を締結した。また、海外からの入学者の受け入れを推進するべく、日本語学科を有する台湾の5高校と連携協定を締結し、オンラインを活用して意見交換を行った。

本学学生の対面留学も再開し、米国デューク大学に2名、台湾（中国医薬大など）に5名の学生を送り出した。また、38名の海外学生が8月のオンラインプログラムに参加し、慶熙大学校韓医学部の学生を1～2月に計52名対面で受け入れた。

#### **(キ) 募集・広報**

オンラインと対面、それぞれの特性を活かしてオープンキャンパスや個別相談等を実施し、一定の成果はあったものの、入学定員に達することができなかった。大学に関する情報をニュースリリース、動画、SNSにより積極的に発信し、多くのメディアに掲載されるなど、大学の知名度は徐々に向上している。

#### **(ク) 学校評価**

薬学教育評価における長所として挙げられた地域連携および国際交流の促進を継続して行った。薬学科の卒業率の改善等については、自己点検・評価委員会を中心として対応策を検討している。

### **ウ 神戸医療未来大学**

#### **(ア) 教育**

##### **a 大学名称変更・学科名称変更に伴う教育課程の再編成**

令和4年4月より大学の名称を「神戸医療未来大学」に、社会福祉学科の名称を「未来社会学科」へ変更した。それを受け、令和5年度以降の入学生を対象とした、新たな大学名称や学科名称の目的に適合する新たな教育課程の編成を行い、取得可能な資格の整理と見直しを行った。令和5年度より未来社会学科での介護福祉士養成・保育士養成を廃止し、社会学領域を中心とした科目の充実を図る。健康スポーツコミュニケーション学科では、令和5年度より社会福祉士養成を廃止し、健康・医療領域、スポーツ科学領域・スポーツ情報領域を中心とした科目の充実を図る。

##### **b オンライン授業の充実**

社会情勢を見極めながら、原則として対面授業を実施しながら対面授業とオンライン授業を適切に組み合わせた効果的な教育体制の構築に努めた。

##### **c 社会福祉士・精神保健福祉士養成課程の再構築**

令和3年度入学生より社会福祉士および精神保健福祉士養成における新カリキュラムが導入され、新カリキュラムに基づいた社会福祉士養成課程の学外実習が令和5年度より始まる。令和4年度は実習体制の具体化を進めた。同時に、新カリキュラムに対応した新規の授業を順次開講した。

#### **d 修学指導の充実**

学務システム（active academy advance）の有効活用に努め、履修指導や授業運営についての活用を教職員に促した。

#### **e FD活動の活性化**

授業評価アンケートを刷新直後、コロナの影響によって授業体制の変化を迎えたために順調な実施とは言えない期間が続いていたが、ようやく新アンケートの実施と回収が軌道に乗ってきた。今後も引き続き、授業参観や国内&学内のFD研修と合わせて、アンケートデータの分析を踏まえて教育改善を図ることに努める。

### **(イ) 研究**

合計6名（研究代表者3名・研究分担者4名、1名は重複）の教員が文部科学省科学研究費補助金の採択を受けた。今後も学内研究費の充実はもとより、文部科学省科学研究費をはじめとする外部資金の導入をさらに促進することにより、研究活動の活性化に努める。

### **(ウ) 学生支援**

#### **a 多様な背景を持つ学生へ支援体制の強化**

多様な背景を持つ学生への合理的配慮に基づく支援体制を強化するため、全学的な支援体制を強化した。また、担任教員、学生課及び学生相談室が連携を図りながら、様々な学生の学習面、生活面、精神面、コロナ禍における経済的困窮等適切な相談、支援を行った。

#### **b 正課外教育の充実**

「キャリア演習」等でジェネリックスキルを向上させることにより、正課外教育として、引き続き、障がい者支援活動やボランティア活動に関するセミナーの拡充を図るとともに、地域課題の解決に向けた地域や企業との対話の場へ学生を派遣する正課外教育プログラムを構築した。また、大学スポーツ協会が進める事業を推進し、学生スポーツ応援による学生間交流の促進を行った。

#### **c スポーツ活動及びサポート事業の強化**

大学スポーツ協会が進める事業を推進し、スポーツ活動そのものの強化を図るだけでなく、コーチングスキルを向上させる研修会等への参加を促した。

### **(エ) 社会貢献および地域連携**

#### **a 産学官連携事業の充実**

もちむぎ新品種を使った製品の開発など、福崎町の地域創生事業への支援と産学官連携事業の展開を図った。令和4年11月、福崎町（西治営農組合）、株式会社寺尾製粉所との産官学地域連携協定を締結し、令和5年3月にはもち麦を使ったわらび餅風の菓子が完成し、地元観光協会等の売店で販売が始まった。

#### **b 地域の要請に応じた地域貢献の充実**

教職員・学生による福崎町学童親子運動教室やオレンジカフェ等の継続的な地域貢献活動への参加、教職員・学生のボランティア活動への積極的参加、教員の専門的知識を活用した福崎町や社会福祉法人等を対象とした講演活動、公開講座を実施した。令和4年度地域公開講座実績は以下のとおりである。また、令和5年度から福崎町老人大学神崎・福寿学園からの要請により健康科学部が新たに設置され、教育による地域貢献が加速することとなった。

・令和4年度 地域公開講座および連携

- 8/28 令和4年度福崎町第1回ボッチャ大会（田中教授、福崎町役場福祉課・福崎町障がい者基幹相談支援センターとの共催）
- 10/18 SNSを大人も子どもも幸せに使うために～知っておきたい現象～（野本教授）
- 10/26 不変式（西本教授）
- 11/12 あいまいな認知（遠藤教授）
- 11/26 ゆっくり動いてリフレッシュ：スローなリズム体操（野上教授）
- 12/9 みんなで踊ろう！（山口講師）
- 12/17 ストレスとうまく付き合うために（永浦准教授）
- 1/21 地域の資源を掘り起こす～まちづくりを企画する～（三岳准教授）
- 1/28 令和4年度福崎町第2回ボッチャ大会（田中教授、福崎町役場福祉課・福崎町障がい者基幹相談支援センターとの共催）
- 1/31 地域の日本語教育支援の在り方（松下教授）
- 2/24 たんぱく質の上手な摂り方（橋本教授）
- 2/25 ネパール餃子モモにチャレンジ！！（天王寺キャンパス教員）
- 3/17 ヴァルネラビリティ（藤田准教授）
- 3/18 グローバルなシニアライフ～日本の介護を担う多国籍介護福祉士～（小田教授）
- 通年 ふくちゃんさきちゃん親子運動教室（毎月第一土曜日）

c 異文化交流の講師としての留学生派遣活動の拡充

大阪天王寺キャンパスの留学生を近隣の学校や施設に外国語授業の講師や異文化を紹介する講師として派遣する活動を計画したが、今年度もコロナ禍の影響により延期を余儀なくされた。コロナ禍からの解放の機運が高まったことにより、令和5年2月に、NPO法人「IKUNO 多文化ふらっと」に留学生派遣活動を再開した。ここでは、ネパールからの本学留学生2名が「ネパール語ミニ講座」における講師を担当した。

(オ) 国際交流

a 日本人学生の海外学修の推進

令和4年度より学園のプログラム「ROSE イギリス留学」を再開した。直前まで実施が不確定だったことから広報が行き届かなかったことや、参加費が世界情勢の影響で高額なことから、学生の参加が芳しくなかった。今後、学生が海外学修プログラムへ興味を持ち、参加するように尽力する。

大阪天王寺キャンパスの留学生が、姫路キャンパスの学園祭に参加し出店したことで、学内の外国人留学生と日本人学生の相互理解と交流の第一歩となった。

b 外国人留学生の受け入れ態勢の整備

全面的に対面授業にもどったので、外国人留学生の日本での生活や大学生活について、これまで以上に支援の充実を図る。

従来に引き続き、日本語能力の向上のためN1およびN2（日本語能力試験）の受験を奨励し、その合格を目指した勉強会を開催した。意欲的な学生が参加し、日本語学習のモチベーションを高め、N1合格者を排出した。

## （カ）就職支援の充実

### a キャリア教育の充実

学生に必要な情報を迅速に届ける仕組み（Active Academy Advanceによるネット通信）による情報の発信に加え、教職員との連携の強化を図り、本学主催のセミナー、資格取得支援講座、学内就職フェア等への、より多くの学生の参加を促した。就職内定率向上のため、学生の就職活動への意欲を高めるとともに、学生が自己分析・企業分析を行い、企業が求める履歴書やESの作成、面接等への指導を強化した。

コロナ禍での就職活動に対するオンライン指導も状況に対応しながら継続した。4年生には、就職活動解禁とともに開催される企業合同説明会への参加を促し、3年生には、1年間通じて活用できる「キャリアサポートブック」の作成・配布や就職ガイダンス・就職セミナーの開催及びゼミ単位での就職支援を行った。また、インターンシップ情報も発信しインターンシップ説明会への参加を支援した。

1、2年生には、キャリア教育（「キャリアデザインⅠ」「キャリア演習Ⅱ」）の指導体制をさらに整備するとともに、その内容の一層の充実化を図り、今後の進路、職業選択に向けて、自己理解とコミュニケーションスキルの向上を目指した。

### b 留学生に対するキャリアサポートの強化

大阪天王寺キャンパスでは、留学生の就職活動が迅速に行えるように、3年生の段階から就活の準備を進められるように、就活支援プログラムの前倒し実施について検討した。大阪天王寺キャンパス内で昨年に引き続き企業合同説明会を実施し、留学生の採用に興味・関心のある企業等への働きかけを姫路キャンパスと連携し強化を図った。さらに、卒業生による学生生活（就職活動体験等）をとおして留学生の就職に対する意欲を高めた。

## （キ）募集・広報

### a 全学的な広報活動

高校訪問活動の充実を図り、全学体制で学生確保に向けた募集・広報活動を展開した。在学生の状況把握や、学内外等の話題作りを各部署と連携を図り、教職員を抱き込み、one teamとなり、特に、女子学生獲得に向けた方策を検討した。その情報発信は、HPと連携したSNSを活用し、資料請求者の増、オープンキャンパスへの誘導を強化した。多彩な魅力ある出前授業を揃え、高大連携交流のさらなる拡大・促進を図った。

### b デジタル（Web）広報の強化

ホームページの更なる充実を図り、高校生のコミュニケーションツールであるSNSに大学の最新情報をリアルタイムで配信した。在学生で大学広報スタッフを組織し高校生目線の記事を随時アップした。臨場感のある大学の生の雰囲気が伝わるように動画配信などの充実も図った。多角的に高校生のトレンドやニーズを把握し、授業や部活

等の学内活動だけに留まらず、地域における大学生生活等の視点で学生の日常を定期的に発信した。それによりオープンキャンパスの参加に誘導できた。

#### c コロナ禍における戦略

オープンキャンパスでは、ハイフレックス型を主流とし、来場でもオンラインでもコロナ禍の情勢に合わせて選択できるように実施した。また、「毎日がオープンキャンパス」をオンライン実施し、部活高校生にとっても参加容易かつ安全に実施した。

#### d 入試

アドミッションポリシーに基づく、入試の多角的なあり方を検討した結果、高大連携校入試を新規に導入した。また一般入試でオンライン入試を導入するなど受験機会の充実を図った。

### (ク) 学部学科の改組転換等の検討

事前相談を含めた経営福祉ビジネス学科の学科名称変更手続きを進め、令和5年4月より「経営データビジネス学科」へと学科の名称を変更するに至った。

加えて、既存の人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科を基礎とした届出による「健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科（仮称）」の設置について検討し、教育課程や3つのポリシーの再編を含めた準備を進めた。運営委員会への事前相談の結果、本学の計画は届出による設置に該当するとの返答を12月末に受領した。この結果を踏まえ、早期に届出ることにより、令和6年度からの学部設置を目指す。

### (ケ) 大学自己点検評価

内部質保証に関する規定を検討するとともに、第3クールの大学機関別認証の受審にむけ、3つのポリシーの検証、教育成果の可視化、教職員の能力の開発、学修支援・学習環境の整備等について点検・評価を図った。

## エ 福岡第一高等学校・第一薬科大学付属高等学校

### (ア) 教育

#### a 教育内容の充実

コロナ禍の状況を確認しながら対面式授業とハイフレックス授業（毎週水曜日）を一部取り入れ授業を展開した。

実習を伴う専門科、コースについても概ね予定通り実施され、令和3年度より、新型コロナウイルスの影響が少なかった。

#### b 授業体制の進化

##### (a) 学科、コースの見直し検討

###### 【福岡第一高等学校】

建築土木の基礎的事項を習得させるため、令和5年度入学生より建築土木科のコース統合を行うための学則変更を行った。

###### 【第一薬科大学付属高等学校】

社会のニーズにこたえるため、AIビジネス科を3コース、保育科を2コースに細分化するための学則変更を行った。

(b) 国際科は、「DP (Diploma Programme)」を生徒たちの視点（得意とするところ）

を深化・向上させ、語学向上のために、オンラインにおいて各種スピーチコンテスト等に積極的に参加させた。

また、令和4年度もコロナ禍により、ニューヨークに行き世界の中心を体感させることができなかったが、一部8名の生徒が韓国ソウルに旅行し、外国の生徒との交流を行い、国際感覚を醸成した。また、IBコースの卒業生3名が国外への大学進学を希望し、5名が国内大学へ進学した。

- (c) 社会のグローバル化に対応するため、福岡第一高等学校に設置している「日本語準備クラス」の外国籍や帰国子女に対して日本語、日本文化の習得に努めさせた。

本年度は、12名の生徒のうち9名が2年生からは希望する科に進級した。

他の3名は母国等に帰国転学した。

**c ICT教育の充実**

ICT機器を使用した授業を展開した。特に年度当初にICT授業に必須の教育用アプリケーションの使用について講習会を開催する等の取組により運用側のスキルも向上し、スムーズに授業を展開することができた。

**d プレゼンテーション能力の向上**

本校の毎年の行事となっている「クラスマッ知」を10月に開催した。今年はテーマを「データで探求しよう日本が世界一」として、昨年度に引き続き、オンラインにより、YouTubeやオンデマンド動画配信も活用して行った。

発表から表彰に至るまでオンラインを活用した結果、配信型の見せるプレゼンテーション能力が昨年度より格段の向上が図れた。

**e 高大連携教育**

継続した関連大学等での実習教育を行い、専門性の高い能力を習得させ、また意識を涵養させ大学進学後の教育にスムーズに適応させることができた。

**(イ) 進路・就職の支援**

**a 共通事項**

- (a) コロナ禍の影響が少なく大学、企業からの訪問が増大した。また生徒によるボランティア活動等の社会貢献等の実体験を計画していたものの、中止を余儀なくされた。全般的には進路活動としては低調となった。

この状況にあって、特に就職活動はオンラインや書類による面接を積極的に行い努めて生徒の希望に沿った進路へ結ぶことはできた。

- (b) 学校設定教科に検定・資格に特化した科目を設定し、工業系学科に関しては、実業系の資格を中心に行い、普通系学科は進学に有効な「漢字検定」「英語検定」を全学年で実施、「数学検定」は希望者で実施している。国際科・国公立クラスは受験に特化した英語関係の検定を取得させた。

- (c) 「進学係」「就職係」「統計係」「関連学園窓口」の積極的な活用により進路・就職の実績の向上を図っている。

**(d) 高大連携の積極的推進**

**【福岡第一高等学校】**

令和4年度は、予定通り関連校への体験学習を行う計画が実施でき、進路決定の

具体的考えをまとめさせる機会が出来た。また、グループ校（日本経済大学、第一薬科大学、第一工科大学、神戸医療未来大学、福岡こども短期大学、専門学校第一自動車大学校）の利点を生かし、またオンライン配信による進路選択を行ったが、コロナ禍にあって、進学率は、約 93.8%（令和 3 年度 95.7%）と若干減少した。

#### 【第一薬科大学付属高等学校】

「普通科薬進コース」にあっては、第一薬科大学の付属高校としての優位性を活かし、大学の講義受講を単位として取り扱うほか、大学見学・実習体験を行った。また、「保育科」についても、専門科であることから福岡こども短期大学と積極的に連携し高い進学率を確保した。

進学率は 81.1%（令和 3 年度 93.5%）であった。

#### b 就職に対する支援

##### (a) 全般

- ・ 福岡第一高等学校 就職希望者 127 名、就職者 122 名（96.1%）  
卒業後も就職活動のサポートを継続している。
- ・ 第一薬科大学付属高等学校 就職希望者 40 名、就職者 40 名（100%）

(b) 3 年度に比し、資格取得に向けた取り組み（特に補備の時間）が展開できた。

この結果、就職活動に優位性を持たせるため実業系の資格 4 種類にチャレンジさせ延べ 352 名が資格を取得することができた。

(c) 進路指導担当が企業からの訪問を受け積極的に就職情報を収集・伝達を行うとともに、生徒と企業のマッチングに努め、企業と高校の信頼を深め、採用枠を確保した。

(d) 計画したインターンシップが実施でき、生徒の選択に応じた企業の開拓等が円滑に行われた。

#### (ウ) 募集・広報

##### a 全般

募集目標を、福岡第一高等学校は 700 名、第一薬科大学付属高等学校は 200 名として各種の募集広報施策を実施し、募集環境の厳しい中、令和 5 年度の入学者は、福岡第一高等学校は 712 人（昨年度 677 人）、第一薬科大学付属高等学校は 233 人（前年度 177 人）を入学させ目標を達成できた。

##### b オープンキャンパス等の充実

(a) 2 回（昨年度は 5 回）オンラインによるオープンキャンパスと対面型の 7 回のオープンキャンパス及び保護者、中学校に向けた説明会を実施した。特にオンラインによる中学校説明会においては創意工夫を持って実施した。

前年度と比較し、中学校等への訪問回数は増加した、通学可能な区域中学校約 205 校及び塾に対して、延べ 200 回、その他の区域外中学校約 30 校に対して延べ 40 回の募集広報を実施した。その結果、昨年度を上回る 3,901 名（前年度 3,342 人）のオープンキャンパス参加者を得ることができた。

また、P-ONE 高（通信制課程）の広報募集も定期的な学校訪問、オープンキャンパスの実施により例年に比して大きな成果を上げた。

(b) 中学校、塾、保護者に対する説明会についても、オンラインによる説明会を主体に行った結果、延べ 580 名（前年度 417 名）の参加者を得ることができた。

**c 組織的募集活動**

昨年度の広報体制を維持しつつ、オンラインの利点を生かし、情報を共有し組織的かつ積極的に募集活動を展開した。

**d ホームページ等の充実**

学校の話題や学生活動をタイムリーに掲示するなどして瞬発力のあるホームページを作成するとともに、SNSを活用した広報活動を行った。

ホームページのアクセス数は、福岡第一高等学校が年間 200 万人（前年度 180 万人）、第一薬科大学付属高等学校が年間 62 万人（前年度 70 万人）となった。

**e 情報公開の推進**

学校行事、各説明会等様々な情報をホームページに掲載し、正確な募集情報等の公開に努めた。また、本校の教育活動等を SNS で身近に感じるように理解や関心を高め、信頼される学校づくりを推進した。

**f 独自の奨学生制度の導入**

前年度に引き続き、社会のニーズに応じた本校独自の奨学生制度（パラマ奨学生・兄弟姉妹奨学生等）を導入し、効果的な募集活動を展開して入学者の確保に努めた。

**g 派遣授業の実施**

コロナ禍の影響小により計画した全部の派遣授業を実施し、中学生に本校の興味・関心を持たせることに努めた。

**(エ) 退学防止**

**a オンラインによる授業の継続**

今年度も毎週水曜日のハイフレックス授業は様々な理由により登校をためらう生徒にとっては効果的な授業展開で学業を続ける選択肢となった。

**b 退学防止委員会の設置（「GAT」（グリーンアシストティーチャーズ）**

退学者を減らすため退学防止委員会を設置し、退学者の傾向分析の結果、別室学習、遠隔授業、全通併修による単位取得、総合学習を学生に合わせて引き続き行っている。

また、保護者、生徒との面談を行うとともに学習支援センターとの併用を準備したが、令和 4 年度の利用者はなかった。

**c 居場所づくり**

生徒に対して居場所としてパラマ塾（自分との出会いの場、個性開拓の場）及びサマープログラム（生徒主体のクラス学習会）を実施した。

**d その他**

事業計画した、第二の担任の活用として、月 1 回、渉外担当者（第二の担任）による「中学校別ホームルーム」（アンケート、面談等による心情把握）及びやり直しができる補講体制の構築については、計画的に実施できた。

**(オ) 課外活動の成果**

**a 男子バスケットボール部**

SoftBank ウインターカップ 2022 準優勝

令和4年度第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会 優勝

U18日清食品トップリーグ2022 優勝

**b 陸上部**

全国高等学校総合体育大会男子棒高跳び7位入賞

第77回国民体育大会 男子棒高跳び7位入賞

第16回U18・第53回U16陸上競技大会男子走高跳U18 7位入賞 U16 5位入賞

**c ヨット部**

全国高等学校総合体育大会女子コンバインド 3位入賞

**d 剣道部**

玉竜旗高校剣道大会 男子団体準優勝

全国高等学校総合体育大会 出場

**e テニス部**

全国高等学校総合体育大会 ベスト8

全国高等学校選抜テニス大会 出場

**f 駅伝部**

2022 全国高校駅伝男子競走大会初出場 第19位

2022 全国高校駅伝男子競走大会福岡県大会 初優勝

**(カ) 危機管理**

災害に対する教育を行うとともに、オンラインにより危機管理意識を高めた。特に、コロナ対策に傾注し、登下校、スクールバスの乗車、食事におけるルール等、生活行動における危機管理対応を図った。

**(キ) 教育施設等整備**

コロナ禍の影響も薄れ、業者への発注も計画通りに整備を進めた。令和4年度は、夏場の温度が上がり授業に影響が出たため、教室の空調機の更新を例年より増加させた。また、コロナ対策として補助金を積極的に活用した。

**a 教材施設整備**

ICT教育に必要な教材、器材の整備及び老朽化した空調機器の更新を行った。

**b コロナ感染対策**

国・県の感染症対策の補助金を活用して、空気清浄機及びアルコール、除菌シート等を購入し、生徒・職員の感染防止に努めた。

**(ク) その他**

**a 各種行事へのコロナの影響**

今年度は、コロナ禍の影響小を踏まえ、令和3年度中止とした体育祭、修学旅行を創意工夫して行った。特に体育祭は全国初の「夜の体育祭」を実施「ONEチーム」合言葉に全体として盛り上がり、メディアにも取り上げられ多大な成果を収めた。パラマ祭(学園祭)も例年通り実施出来た。入学式・卒業式については、参加対象を絞りそれぞれ縮小して実施した。

**b 留学生に対するコロナの影響**

コロナの影響により一部生徒が入国できず、未入国のまま退学となった。

## オ 専門学校第一自動車大学校

### (ア) 教育

#### a 一級自動車メカニックコース

- (a) 令和6年の自動車整備士制度等の見直しに伴い、自動車の点検・整備・検査に係る専門的な知識及び技能、特に電子制御装置に係る内容として教科書に先駆けて自動運転に係る内容を実習させるとともに、各種の整備用診断器を用いて応用的な故障探求として車載エンジンにおける故障探求の実習により、究めて実務に近い技能水準を身に付けさせた。
- (b) 環境保全や安全管理に適応できる車の電子制御装置の発達やハイブリッドカーの普及に伴い総合的業務として、低電圧取扱者の資格の復習を兼ねて感電の危険性を考慮したハイブリッドバッテリーの脱着を実施する等深く充実した整備士を育成する事ができた。
- (c) 最先端設備を揃え、高いレベルの技術として、学校で出来る準備として一人で法定点検できるレベルまで引き上げ、インターンシップにおいて現地確認の機会を活用し、現場の情報を収集しながら社会で活躍でき、お客様に分かりやすく情報提供ができるスキルを身につけさせることができた。
- (d) リサイクルを考慮した整備手法や、総合的な故障診断から整備計画の作成手法を習得させた。
- (e) 新型コロナ感染状況を考慮しながら一部学科科目においてオンライン授業を実施したが全ての授業の切り替えはできなかった。国家試験対策授業を工夫しながら、一級小型自動車試験合格率100%を目指す。

#### b メカニックコース

- (a) 令和6年の自動車整備士制度等の見直しに伴い、自動車全体に関する一般常識の知識及び技能を有し、単独で分解整備作業が行える水準まで身に付けさせることができた。
- (b) 新教育カリキュラム制度導入（サイクル型）で、学生の出席率向上と学習意欲アップを図るとともにきめ細やかな教育を実践した。
- (c) 少人数制及び習熟度別クラスを編成し基礎を理解させ、自動車社会の多様なニーズに適応できるレベルの専門教育や失敗を恐れず、挑戦する勇気をもった人間性の育成を行う事ができた。
- (d) 足廻りの分解整備から、エンジンに関わる分解修理等の実習に力を入れ、基本的な作業の反復練習を行いながら、就職後即戦力として働けるよう技術力向上に努める事ができた。
- (e) 国家試験対策授業を色々工夫しながら二級自動車ガソリン・ジーゼル国家試験合格率100%を目指す。

#### c 留学生基礎自動車整備士コース

- (a) 日本語教育の強化を図り、N2もしくはN3に合格できるように授業の工夫と教職員のスキルアップに取り組んだが、残念ながら日本語能力試験（JLPT）取得

に繋がらなかったため、結果を分析してカリキュラムに反映させた。

(b) 地域に貢献として公民館において、小学生や老人クラブの方を対象に、母国のPRをするとともに、日本の文化にふれさせることができた。また、積極的な意見交換にも取り組みコミュニケーション能力を身につけさせることができた。

(c) メカニックコースの教育への円滑な導入を図るため、外部の自動車教習所と連携した合宿により普通自動車運転免許の取得に臨み、100%取得させることができた。

#### (イ) 学生支援（進路指導含む）

a ディーラーと連携をとり、「インターンシップ」を1年生の12月に実施し、早めに就職にむけての意識改革を図り、希望会社への就職活動をサポートしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け期間を短縮の煽りも存在したが、整備士としての一日の点検作業に慣れさせることができた。

b 履歴書作成・面接・企業へのアプローチ方法等について、外部講師や担任による個人指導を随時行い、卒業生からのバックアップ等のフォロー体制もとりながら就職率100%を達成した。

c 教職員で月1回社会人としてのスキルを身につけさせるため、コロナ過を考慮した少人数単位での礼法指導を実施し、規律正しい挨拶を身につけさせることができた。

d コロナ過の影響により卒業生のいる企業等に出向くことはできなかったが、企業及び卒業生に来訪してもらい、留学生に対して国別に話をしてもらおう等の機会を得て各種情報収集を実施した。

#### (ウ) 募集・広報

a 令和5年度の入学者120名を目標に募集・広報活動を実施したが、留学生についてはコロナ過の影響による入国制限等により希望者が減少したことが大きく影響し、また、日本人については自動車離れの傾向が強く、学校訪問等を重視して実施したが入学には至らず、入学者95名となり目標を達成することができなかった。

b SNSやホームページ等の電子媒体の積極的な活用し、高校訪問を含む各種広報手段の成果等のデータを継続的に収集・分析し、効率的・効果的な広報に努めた。

特に、Z世代を意識したSNSの制作、発信を意識し、早期かつタイムリーに広報した。

しかしながら、訪問する時期がやや遅かったこと及び訪問後のフォローなどがやや欠けていたこともあり募集にはつながらなかった。

b 中学・高校の体験学習を募集し積極的に受け入れるとともに、オープンキャンパスやオンライン学校説明会を活用し高大連携教育の深化・拡大に努めるとともに、産学連携を積極的に推進し、若者が興味を引く教育内容・要領に留意した。

また、小・中学校校長に体験実習をお願いしたが、コロナ過の影響もあり外部授業は受け入れてもらえなかったが、コロナ終息後は期待が出来ると思料する。

c 通学圏内のJR等公共交通機関沿線の高校及び、離島を含めた県外の自動車整備専門学校等の空白域を重視した高校訪問について進路に基づく重点校をピンポイントで年間計画したが、オープンキャンパス、入学には結びつかなかった。効率的・効果的な募集広報についても一度検討の余地がある。

- d 在学中の留学生に対し、学校施策やオープンキャンパス等の情報を積極的に提供し、ヒューマンネットワークや友達紹介によるオープンキャンパス参加等の募集広報の環境を整備したが、日本語レベルが低く入学までには至らなかった。また、日本語学校訪問、オープンキャンパス等の募集広報の終始を通じ、日本語能力がN2以上で、自動車整備に関心が高く、学習意欲も高い学生の確保に留意した。
- e オープンキャンパスで各ディーラーとコラボ企画を計画した。現在、最新装備を備えている若者に人気の車を本校に持ってきていただき、試乗体験などのイベントを通じて自動車整備士に興味を持たせることができた。

#### (エ) 学校評価

- a 学内外に高い評価を得ている就職率8年連続 100%及び一級及び二級自動車整備士国家試験合格4年連続 100%を目標にして良好な点を深化させた。  
また、要望のあった新型コロナ対策への取組み（地域交流を含める）や自動車整備士制度改革への対応を推進した。
- b 3年連続でコロナ禍において不十分であったインターンシップ等による教育活動の充実を図ることができた。
- c 入学時から、日本人については成績の悪い者には担任による保護者との連携などきめ細やかな面談に努め、保護者を含めた将来設計を描かせたが、新入学生の退学者を減らす事ができなかった。  
留学生については学業意欲の低下（日本語力）、経済的問題分割等による対応により退学者無しに結び付いた。

#### (オ) 施設・設備

各種点検、整備を行うとともに、経年劣化による老朽対策を実施し、教育環境の維持管理に努めることができた。次年度も計画的に老朽化対策を推進していく。

### カ 東京マルチ・A I 専門学校

#### (ア) 教育

##### a 教育の質の向上（カリキュラムの改善）

- (a) 入学者数減少により、設備投資が非常に厳しく新設予定であったA Iシステム科は開講を見送ることとなった。
- (b) 学校名変更により、各学科 Python プログラミングなどA Iの授業が一部学習できるカリキュラムに改めた。
- (c) 新型コロナが収束傾向となり対面授業を再開した。今後は退学防止の手段としてオンライン授業を併用したい。

##### b 夏期・春期講習の実施

ビジュアルデザイン科とゲームクリエイター科のポートフォリオ制作を実施した。完璧ではないものの、長期休暇中に有意義な講座となった。次回はより完成度向上を図るよう内容をブラッシュアップしたい

#### (イ) 学生支援

##### a キャリア形成プログラムの拡充

計画していたプログラムを開催し、学生の就職活動の一助となった。就職活動に消極的な学生をいかにサポートするかが今後の課題である。就職エージェント企業と連携を強化し様々なプログラムの開催を予定する。

また、パートナー企業を通し求人紹介や面接会などのイベントを開催し内定者を輩出した。また、AI学習の一環としてPythonプログラミングの授業が2年生を対象に令和5年度からスタートする。

#### **b 学生会活動**

学生会は新型コロナの影響で活動に制限を受けた。令和5年度から活動の再開を予定する。

#### **c 退学者防止**

金銭的な理由での退学者を最小限に抑えるため、奨学金担当者および担任から学生へコロナにおける支援制度を周知し、効果があった。

### **(ウ) 募集・広報**

#### **a 全般**

令和5年度の入学者は、令和4年度に比し27名増加し、120名となったものの、目標とした130名には及ばなかった。令和6年度入学生は、留学生の増加が見込めることからR6目標の160名獲得を目指す。

#### **b 学校名変更に伴う日本人学生募集の強化**

ITの学校として特化するため「ビジュアルデザイン科」を募集停止。専門性の高い学校をめざす。

#### **c 歩留り強化**

オープンキャンパスの歩留りは6%減少し31%。今回の入学者は日本人48人、留学生72人の合計120人であり、昨年度より26人増加した。

#### **d コロナ禍におけるオープンキャンパスの充実**

オンラインオープンキャンパスも開催したが、対面形式よりも動員ならびに歩留りが苦戦した。地方からの参加も減少した。

### **(エ) 施設・設備整備**

a 東京都私学財団の補助を活用して、Adobeのソフトウェアの120のライセンスを取得した。令和5年度は、パソコンの更新を予定する。

b 1階の学生用トイレ洋式化整備を完了した。今後は補助金を利用して2～4階すべてを完了させたい。

### **(オ) 自己点検・評価及び学校関係者評価**

#### **a 学校関係者評価**

就職率の向上のため、学校独自の就職サイトを充実させ利便性を高めた。また、検定試験対策を目標に夏期・春期講座を開催し、情報処理科では今回も国家試験合格者を輩出した。

#### **b 自己評価**

退学率の減少と共に、留学生の日本語能力と就職率向上に一定の成果が見られた。更なる内定率アップには日本語能力試験の合格率向上が課題である。

## キ 関東リハビリテーション専門学校

### (ア) 教育

#### a 対面とオンライン教育の実施

令和4年度は対面授業を中心に授業を行い、新型コロナウイルス感染者に対してはオンラインで授業を配信し年間を通して教育を実施した。授業以外でもオンラインを利用して課題の提出や個別の面談等の指導方法にも活用した。

#### b 国家試験対策の実施

国家試験の合格率は理学療法学科 88.0%(全国平均 87.4%)、作業療法学科 57.1%(全国平均 83.8%)であった。

理学療法学科は国家試験対策専任教員を指名し、基礎及び専門基礎の再教育を徹底し、過去問題及び全国模試の結果に基づく個人の弱点を克服する指導を行った。また、国家試験直前まで積極的に登校させ専任教員のもとで試験対策を実施した。

作業療法学科でも3年生に全国模試を実施、また1,2年生には学期末に基礎3科目の模試を実施した。国家試験前に国家試験対策授業を実施したが、学生の多くが社会人であるため自宅での自己学習を中心に学習していた結果、全国模試の時点で学生間の学力の差が大きくなっており、学力不足の学生に対して必要十分な対策を行うことができなかった。また、学生の模擬試験に対する重要性の意識付けを徹底することができず、クラス全体のモチベーションを維持することが出来なかった。

令和5年度は作業療法学科も登校日数を増やし、国家試験直前まで専任教員の管理下のもとで試験対策を実施し合格率アップを目指す。

#### c 新型コロナウイルスの影響

校内では新型コロナウイルス陽性者が数名出たが、クラスターといった状況になることはなかったため、授業計画を大きく変更せざる得ない状況にはならなかったが、校外の病院やリハビリ施設で行う臨床実習については、2回実施計画のうち1回しか出来ない場合もあり、その場合は学内実習に切り替え対応した。

### (イ) 学生支援

#### a 校内就職説明会の実施

実習施設先からの就職依頼が多数あることから、10月に理学療法学科、8月と12月に作業療法学科の校内就職説明会を学生の就職活動をサポートする為に実施し、学生の就職活動に活かすことができた。

コロナ禍のためオンラインによる校内就職説明会であったが、実習先を中心としたリハビリ関連施設69施設の参加を受けて実施した。その結果、学生の就職先として実習先や校内就職説明会に参加したリハビリ関連施設への就職につながった。

#### b クラス担任制の活用

定期的にクラス担任が個人面談を行い、学生一人一人の現状把握に努め留年、退学防止に努めた。作業療法学科では、学費を自己負担している学生も多く、経済的な理由から仕事やアルバイトのスケジュールを密にすることでの学力低下もみられる為、その都度ご父兄と連絡を取るように対応した。

### c 学生相談室の設置

学生が気軽にさまざまな事を相談できるよう学生相談室にスクールカウンセラーを置き、週に1日、問題や悩みについて一緒に解決策を考え、新しい生き方を見出していくように学生を援助した。

### d 入学前オリエンテーションの実施

令和5年度入学生に対し、入学前の2月、3月にオンラインによる入学前オリエンテーションを実施した。入学前に新入生と交流を図り、入学後の授業や学校生活に馴染めるよう模擬授業を実施した。オンライン学習も体験してもらい、入学後に速やかに順応できるような方法で実施した。

### e 各種資格の取得

#### (a) 日本スポーツリハビリテーション学会(JSSR)トレーナー認定資格

令和5年3月に認定資格取得のために講座を本校で開催し、3年生の希望者19名が受講し、全員が資格を取得した。資格取得者は年々増加している。

#### (b) 健康ゲーム指導士

福岡天神医療リハビリ専門学校で実施された「健康ゲーム指導士」講習会に作業療法学科の学生を参加させ、健康ゲーム指導士として認定された。

#### (c) 初級障がい者スポーツ指導員資格

「初級障がい者スポーツ指導員資格」の取得申請を行い、理学療法学科3年生17名、1年生2名が認定された。

### f 新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルス感染症を考慮し、一部の講習会等の実施を控え、また春のボウリング大会と秋の学校祭等のレクリエーションは中止とした。その代わりに、国際福祉機器展の見学には1,2年生を同時に参加させ、福祉機器の知識を深めながら学生同士の交流の場にもなるようにした。

## (ウ) 募集・広報

### a 募集結果について

令和5年度の入学者は、理学療法学科33名、作業療法学科21名の合計54名であり、令和4年度に比し9名の増加となったものの、令和5年度入学生の目標60名には及ばなかった。

### b オープンキャンパスの実施

令和4年度は対面方式で、土日の昼間に行うオープンキャンパスを16回、平日の夜間に行う夜間見学会を17回、平日の昼間に行う個別相談会を9回実施した。オンラインによる個別相談会も実施し、総参加者数は合計187人であった。

オープンキャンパス及び夜間見学会時に個別に質問出来る時間を設け、見学者の疑問や不安の解消に努めた。

### c 公式ホームページの改善

資料請求・オープンキャンパス申込フォーマット等を改善した。

## (エ) 学校関係者評価の実施

学校関係者評価委員会を実施した。本校で実施した自己点検をもとに外部の医師、理

学療法士、作業療法士、卒業生を招いて、学生と本校の今後につながる建設的な意見を受けることができた。実施報告については、本校ホームページに掲載し公開中である。

#### (オ) 施設・設備整備

##### a 校舎南側外壁の防水工事の実施

校舎南側の雨漏りおよび外壁タイル落下防止のために、防水塗料によるシルード加工工事を実施し修繕を行った。残りの箇所については令和5年度に実施予定である。

##### b 教材の更新

理学療法士作業療法士養成施設指定規則改正に伴い、新たに設置義務が発生した床反力計一式、筋力評定装置、超短波治療器等を、東京都私立専修学校教育環境整備費助成事業を活用し購入した。

#### (カ) 地域活動への参加

令和4年度は10月初旬より立川市社会福祉協議会と連携し、立川市で行われているサロンを主体とした地域活動に学生を派遣し、6団体の活動に学生が企画した作業療法視点での活動を実施し、立川市の広報誌「まちねっと」に掲載された。本校で取得した「健康ゲーム指導士」として地域活動で実践することができ、関東リハビリテーション専門学校を地域住民に周知することもできた。社会福祉協議会やサロンの出席者からも大変好評であった。

### ク 福岡天神医療リハビリ専門学校

#### (ア) 教育

##### a 全般

各学科の授業は、新カリキュラムに基づき問題なく進捗した。

##### b 国家試験対策教育の成果

令和4年度の国家試験合格率は、理学療法士が95.5%(全国平均87.4%)、作業療法士が100%(全国平均83.8%)、はり師が92.8%(全国平均70.4%)、きゅう師が100%(全国平均71.7%)、柔道整復師が83.3%(全国平均65.4%)であった。

##### c 教員の能力向上施策の成果

FD活動の一環として、学科内の教員相互授業観察を実施した。緊張感を持った授業への取り組みや他教員の授業方法を見ることにより、相互啓発による授業の質の向上が図れた。令和5年度は、学科相互間の授業参観を計画する。

##### d 退学者の発生

学力不振が理由での1年生の退学者が多かった。入学生には、基本的な勉強方法等が分からない学生が少なからず存在することから、学習意欲の低下による早期退学防止を図るためにも、学力や素養に応じた成績の個別管理・指導を実施する必要がある。

##### e 教育の魅力化施策

最終学年12名が日本スポーツリハビリテーション学会(JSSR)トレーナー認定資格を取得した。また、本校学生69名、学園内関連校学生37名及び高等学校からの受験希望者30名が健康ゲーム指導士資格を取得した。高等学校からの受験者のうち約半数が令和5年度に本校作業療法学科を受験し入学した。

今後、国家資格に加えた付加価値的な資格取得の魅力と満足度をより具体的なものとするために、教育内容の一部カリキュラムへの取り込みや、資格取得者の卒業後の活躍の場を広報することが必要である。

#### (イ) 学生支援

##### a 組織的就職サポート体制

就職支援として、担任教員と就職担当事務員間の積極的な進路情報の共有により、学生個々の特性に応じたきめ細かい進路指導を行った。事業としては、各学科の3年生全員を対象に部外講師を招聘して「労働条件セミナー」及び「就職セミナー」を開催するとともに、九州管内の病院・保健施設等の人事担当者参加を得て「合同就職説明会」を実施した結果、卒業生で就職サポートを希望する学生の就職率100%を達成した。

##### b 修学支援

高等教育の修学支援新制度の機関要件の確認申請を行い、新制度の対象校であることの確認を受け、学生に制度に関し周知するとともに、修学支援の手続きを実施した。

##### c 学校生活の魅力化

厚生活動の一環として、新入生のための「フレンドシップサークル」を継続実施し、入学直後の学生間の交流を深めることができたが、「餅つき大会」、「学校祭」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

#### (ウ) 募集・広報

##### a 全般

令和5年度の入学者は、前年比-7名となったものの、募集目標である入学者定員100%（140名）を達成した。

##### b オープンキャンパス

広報委員会を毎週火曜日に実施し、時期に応じた適切な広報内容及び要領について検討し、実施要領の具体化とその徹底を図るとともに、出張模擬授業、進学説明会、高校訪問、オープンキャンパス（参加者334名）、ホームページを始めとするWebサイトやインスタグラム等のSNSを活用し、積極的かつ効果的な広報に努めた。

学校の入学定員を満たしているものの学科別では、鍼灸学科及び柔道整復学科が定員割れとなった。

##### c インターネット

教育機関としての本校の事業・活動等の情報を、ホームページ、インスタグラム等を活用して正確かつ迅速に掲載・公表を行った。また、逐次、ホームページの細部を修正し、より分かりやすく、時宜に応じた情報発信の要領を検討・実行した。

##### d 高校訪問及びDM（ダイレクトメール）による募集広報

年間の高校訪問実施計画に基づき、高校及び生徒の状況に応じた募集広報を継続的に行い、進路指導の教諭との信頼関係を確立し、受験者の拡大を図った。

また、訪問時期及び対象者に応じた広報資料及び高校訪問マニュアルを作成し、統一した広報活動の実施に着意した。

離島や遠隔地等で訪問が困難な高校に対しては、DMを送付するとともに、希望に

よりオンラインで説明を実施した。

**e 修学環境の整備**

校舎周辺の歩道の毎朝の清掃を継続するとともに、花いっぱいの専門学校として学生や教職員のみならず地域の方々にとっても、親しみやすい専門学校となれるよう花壇の整備やプランターの花の手入れを継続的に行った。

**(エ) 施設・設備整備**

- a 消防設備の定期点検において老朽化が指摘された連結送水管、屋内消火栓呼び水槽及び避難誘導灯について改修工事を実施した
- b 老朽化による故障のため使用不能であった校舎1階の多目的トイレの改修工事を実施した。
- c 老朽化が進む各教室等の空調機器は、故障の都度、修理を実施した。

**(オ) 自己点検・評価及び学校関係者評価**

**a 自己点検・評価**

令和3年度の校務運営に関し、自己点検・評価を実施し、今後の校務運営の改善の方向性を明らかにするとともに、令和4年度校務運営への反映を行った。

**b 学校関係者評価**

学校関係者評価委員会を令和4年6月に書面会議で開催した。自己点検・評価を、書面と電話で意見を交換し、令和5年度の校務運営の資を得た。

**ケ お茶の水はりきゅう専門学校**

**(ア) 教育**

**a 全般**

各学年新カリキュラムに統一され、問題なく進行している。

**b 国家試験対策**

(a) 「受験者全員のはり師・きゅう師国家試験合格」を目標とし、成績不良者も含め時間外の補講及び実技実習の効率的な運営を行い、学生個々の知識及び技術の向上を図った結果、全国平均を上回る合格率：はり師 91.7% (全国平均 70.4%)、きゅう師 91.7% (全国平均 71.7%) を達成することができた。

(b) 国家試験不合格者に対するサポート体制（卒業生で国試不合格者への受験前聴講生受入体制）の充実を図った。

**c その他**

(a) 実技授業における指導体制の確立と技能向上を図るとともに事故の未然防止を図り、実技実習時の事故は皆無であった。

(b) 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、昨年同様、授業体制を座学はオンライン授業へ移行し、実技実習は、クラスを2分割にして授業中の「密」を避けて実施した。

(c) 神奈川歯科大学解剖実習、日本薬科大学薬草園見学等については、参加学生に対して感染防止対策を万全にして実施した。

**(イ) 進路指導（就職支援も含む）**

- a 期待される学生像、信頼される鍼灸師像の明確化とそれに基づく資質能力向上を目指した指導を行い、今年度も就職希望者の就職率は100%を達成した。
- b 学生指導組織の確立と役割の明確化を図り、学生ニーズの把握・理解に努め、迅速な対応を図ることができた。
- c 親身な指導に基づく信頼感・充実感を醸成するとともに、面談等を活用した個別指導を実践した結果、学生の心情把握ができ、じ後の指導に繋がった。
- d 就職支援セミナー、企業説明会を開催することにより、学生の進路に対する意識改革と就職率向上に繋がった。
- e 本校卒業生が勤務している治療院を訪問し、勤務状況、勤務環境、患者さんの特異症例等の各治療院の特徴や後輩に対する生の声として学生に情報提供し、就職活動に反映することができた。
- f 就職先の情報として、はり師きゅう師資格未取得者の受入先を確保する為に求人の開拓を行った。
- g コロナ禍ではあるが、学校カウンセラー（予約制）によるカウンセリングにより、日常の心のケアを行ない、ドロップアウトの防止を図った。
- h 令和3年度発足した同窓会活動は、9月3～4日に軽井沢セミナーハウスを活用した研修会、12月27日にスポーツ大会（ソフトボール等）、3月19日に総会を実施して在校生と卒業生の交流を密にし、更に、就職等に関する情報交換等を活発に行なった。

#### (ウ) 募集・広報

##### a 全般

募集目標である入学者数56名、(入学定員比100%)を2年連続で達成した。

##### b 実践教育訓練給付金の講座の指定

- (a) 本校はり師きゅう師学科（昼間部・夜間部）が、厚生労働省より専門実践教育訓練給付金の講座として指定され、56名の入学者のうち39名がその対象者となっている。

また、徹底した社会人狙いの広報より、イベント参加者数263名、出願者数124名と過去最高の結果に繋がった。志願者の増加は、講座指定が大きな要因であり、今後も指定を継続させていく。

- (b) 専門実践教育訓練給付金講座としての指定以降、志願者が指定前に比し2年連続40%増加した。

##### c 体験入学等

- (a) 新規ターゲットの開拓により、体験入学参加者・学校見学者の増加に努めた。
- (b) 体験入学に鍼灸師として活躍している卒業生を招聘した体験入学を年3回開催したが、卒業生の鍼灸師として活躍している姿を見せることで、イベント参加者が大幅に増加した。

- d ホームページの全面リニューアルを行い、SEO対策を徹底的に行うことで、社会人に評価されやすいホームページに変更した。また、Web媒体を活用して、本校の教育実績等の情報発信を拡充及び認知度向上を図った。

#### (エ) 治療院業務

- a 臨床実習に応じうる医療体制を維持するとともに、地域への貢献と患者からの信頼感を獲得した。

附属治療院において、令和4年度は1,466人の施術を行い、地域住民等に対する医療貢献を行った。

- b 治療院業務を活用した「卒後研修」に卒業生12名が参加し、鍼灸師としての技能・識能向上に努めた。
- c 関係者間の定期的なミーティングによる相互意思の疎通を図るとともに、医療トラブルの防止に努めた。

#### (オ) 学校関係者評価の実施

学校関係者評価委員会を令和4年12月に実施した。本校で実施した自己点検評価を基に、外部委員からは国家試験の合格率が高く、全国平均を上回っており評価できると意見を受けた。また、不合格者のフォローアップについても、希望者は聴講生として1年間通学し、学校と繋がりがながら再チャレンジできる点が良いと思うという意見や、スクールカウンセラーの存在は、コロナ禍においても相談できる体制であり、学生の安心につながるという意見ももらった。今後も継続して心のケアや支援を図る。

#### (カ) 教材・施設整備

- a 法令等に基づく消防・建築・各設備点検を受検し、老朽化等に伴う指導を受けたが、改善計画等に従い適切な処置を実施した。また、軽易な補修等については、自助努力により補修を実施して、良好な教育環境の維持に努めた。
- b 女子学生の入学者増加に伴い更衣室が狭隘となったために簡易間仕切により女子更衣室を増設して学習環境の向上を図った。
- c 消費期限を経過した防災備蓄品を適切に処分し、新たな防災備蓄計画を作成して防災備蓄用品（食料・水・タオルケット等）を備蓄した。

### コ 名古屋未来工科専門学校

#### (ア) 教育

- a 授業担当講師と調整を取り、逐次改善しながら学生ファーストの考えで教育を実行できた。
- b 土曜日や授業後を利用し検定対策講座や補備的教育を行った。結果として、国家資格の合格率は毒物劇物取扱者試験 64.3%（全国平均 38.5%）、基本情報技術者試験 40.0%（全国平均 25.4%）と効果を上げたものがある一方、甲種危険物取扱者試験 14.3%（全国平均 42.5%）と苦戦したのものもあった。全国平均を下回った科目の教育方法や受験時期等を検討する必要がある。
- c 留学生や能力の低い者が混在するクラスでは担当講師から教育が難しいとの指摘を頂いている。改善すべく、引き続き補備教育を行う必要がある。
- d 職業実践専門課程への移行について引き続き検討していく。
- e 視聴覚教材を使って誰もが理解できる教育にすべく、プロジェクター等の機材の入れ替えを行った。
- f コロナウイルスの関係もあり、校外研修が限定された。授業との関連性を理解させ

ることができる機会なので、できる限り実際の現場を見学できる機会を増加させる。

校外研修先として、コプロ・ホールディングスと産学連携の締結を行ったことで、スーパーゼネコンが行っている建築現場を見学する機会を得た。

- g 32名中新規で13名の講師に来ていただいた。その中で、実務経験がありかつ若年層の講師により、学生の目線で講義を実施した。引き続き講師の刷新をはかりマンネリを防いでいく。

#### (イ) 学生支援

- a 授業時間外に対策講座を実施して資格の取得にチャレンジできた。しかし、上位級の合格率で全国平均を下回るものもあったので、学科主任を中心に再度資格取得の対策を講じていく。
- b 就職支援については学生、クラス担任、就職課が一体となり早期から学生への意識付けや面接・履歴書指導等、1人1人を大切にしたい懇切丁寧に細かい指導を行ったことで、日本人学生は就職率100%を達成することができた。ただ、留学生の内定率については90%で特にIT学科が50%と苦戦した。
- c トヨタ自動車、豊田自動織機、清水建設、住友ファーマ等大手企業から設計や製造、開発の求人を獲得することができた。継続して求人を受けよう強いパイプ作りを進めていく。
- d 留学生は言葉の問題による授業の不安や日常生活での不安を抱えている者が多いため、出来る限りのサポートを行って支援をしてきた。しかし、細部まで理解してあげられない点多々あったように感じる。的確にサポートをしていける体制を醸成していく。
- e 本校卒業生が代表を務める株式会社コプロ・ホールディングスと産学連携協定を締結し、「コプロ奨学金制度（授業料の支援）」「現場教育の支援」「研修支援」等の協定を結び支援の基盤が確立できた。

#### (ウ) 募集・広報

- a 定期的に高校訪問および日本語学校の訪問を実施し人間関係の構築できた。しかし、留学生自体がコロナの関係で入国できておらず、多くの日本語学校で修了予定者がいない状況であったため、募集に苦戦した。
- b 体験入学会について夏休みに重点を置いて実施できたが、動員・歩留りの部分で苦戦した。特に歩留りの向上部分について課題を感じた。
- c SNS等で定期的に情報発信を行った。まだ、体験入学への呼び込みについても活用することができた。
- d 新規でファミリー奨学金制度を実施した。適用者は1名であったが、継続的に実施をしていきたい。

#### (エ) 学校評価

- a 学校関係者評価委員会を開催し良好な点として「教職員会議で学生の勉学意欲の低下防止のための情報共有を行う等をして退学防止に努めている」。改善すべき点として「留学生の日本語能力向上、特に専門用語・漢字の読み書きの習得が必要」とそれぞれの意見を賜った。改善すべき点について時間外での日本語の授業を行う等をして前

向きに検討し改善していくとともに長期の計画に従って実行をしていく。

- b 校務システム導入として実務担当者同士で何度も効率的に導入を進めていくためのミーティングを行った。
- c 年々就職活動開始時期が早くなる傾向があり本校もそれに対応し、多くの求人情報を学生に提供することができた。

#### (オ) 教材・施設整備

- a インターネット環境が不安定である部分の解消ができていないが、IT教育に必要なソフトウェアの導入また、プロジェクター等の周辺機器を導入することができた。
- b 校舎外壁の塗装、補修の工事計画を引き続きしていく。

### サ 幼稚園・保育園

みやこ幼稚園・さわらサクラ幼稚園とも安全面を重視して各種行事を実施し、元気で礼儀正しい子供を育成する教育を行うとともに、年間を通じて時間外預かり保育を行った。

コロナウイルスの感染予防対策として、登園時の検温・手指消毒の指導、降園後の園内消毒の徹底を行った。また、各種行事については分散実施、オンライン配信等により感染防止に努めた。また、感染対策機器の購入にあたっては、補助金の活用にも努めた。

### ス 法人本部（法人の事業活動を支える基盤整備）

#### (ア) 高校内新コースの教育準備

令和5年度4月に教育を開始した福岡第一高等学校の建築土木科のコース統合及び第一薬科大学付属高等学校のAIビジネス科及び保育科内の細分化したコースの教育準備を進めた。

#### (イ) 寄附行為・就業規則の改正

- a 神戸医療未来大学人間社会学部「経営福祉ビジネス学科」を「経営データビジネス学科」の学科名変更に伴う寄附行為の変更について文部科学大臣に届出し、令和5年4月1日付で寄附行為を変更した。
- b 管理運営体制を強化するため運営委員会設置のための規程を整備した。
- c 関係官庁の指導等に基づき、就業規則、給与規程等を改正した。

## (2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

### ア 法人

#### (ア) 外部資金の獲得・寄付の充実

- a 教育研究活動の活性化を図り、科学研究費補助金や民間の団体等からの研究助成金や受託研究費の獲得に努めた。
- b 寄付を充実するため、「特定公益増進法人」の証明を取得し、寄附の募集を本格化した。実績を積み重ね、令和5年度に「特別控除対象法人」として、文科省に申請予定である。
- c オンライン授業に必要な教材やコロナウイルス対処衛生機材等の取得について各種

補助金を取得した。

(イ) 人事政策と人件費の削減計画

- a 定年後の継続雇用について厳格に管理した。
- b 教員の適正配置と事務組織のスリム化を維持した。
- c 財務及び学生の募集状況に応じ賞与を一部減額した。

(ウ) 経費削減計画（人件費を除く）

- a 予算の執行にあたっては「伺い書」を厳しくチェックして支出の優先順位・必要性を検討した。
- b 消耗品、光熱水費、旅費交通費、印刷製本費等、管理経費等の節約に努めたが、物価の高騰により支出額が削減額を上回った。

(エ) 施設等整備計画

各学校からの要望に基づき、老朽化した施設・設備の更新を予算の範囲内で実施した。この際、国・財団等の助成事業費を極力活用した。

また、令和3年度策定した耐震化計画に基づき、第一薬科大学実習棟、日本薬科大学研修棟他1棟及びさわらサクラ幼稚園園舎の耐震工事及び耐震診断に関する事前調整、補助金申請業務等を行った。

(オ) 借入金等の返済状況

令和4年度借入未残は約弁により、621百万円減少7,832百万円となった。

イ 第一薬科大学

(ア) 令和4年4月に、医療関連分野のあらゆるニーズに対応できる人材の育成を行うため、医療データ科学専攻と生命医科学専攻の2専攻に区分した4年制薬科学科を薬学部に設置した。

また、中学教諭1種（理科）、高等学校教諭1種（理科）の教員免許状の所要資格を得るための課程認定申請を行い、令和4年11月25日に認定を受けた。

(イ) 令和4年度を評価対象として令和5年度に再受審する「薬学教育評価」について準備を推進した。

(ウ) 第108回薬剤師国家試験の新卒合格率は94.0%であった。

(エ) 募集の成果

令和5年入学者数	大学院	0名	(前年比△ 1名)
	薬学部	136名	(前年比△ 2名)
	看護学部	56名	(前年比△ 28名)

ウ 日本薬科大学

(ア) 令和4年度に、文部科学省 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）に薬科大学として初めて認定され、教育プログラムに「データサイエンス入門」、「データサイエンス概論」を追加し、データサイエンスセンターを本格的に始動した。

(イ) 機関別評価受審に向け、医療ビジネス薬科学科の研究目標を学則に追記し、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの改訂を行った。令和5年度の機関別認証評価の受審に際して、令和5年5月末の自己点検評価書の完成を目指して、準備を推進した。

(ウ) 第108回薬剤師国家試験の新卒合格率は80.6%であった。

(エ) 募集の成果

令和5年入学者数 大学院 3名 (前年比+ 1名)  
薬学部 224名 (前年比△ 29名)

**エ 神戸医療未来大学**

(ア) 「経営福祉ビジネス学科」の学科名称変更手続きを進め、令和5年4月より「経営データビジネス学科」へと学科の名称を変更した。

(イ) 既存の人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科を基礎とした「健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科(仮称)」を令和6年4月に設置するための、教育課程や3つのポリシーの再編を含めた諸準備を推進した。

(ウ) 第3クールの大学機関別認証評価の受審にむけ、3つのポリシーの検証、教育成果の可視化、教職員の能力の開発、学修支援・学習環境の整備等について点検・評価を図った。

(エ) 募集の成果

令和5年入学者数 169名 (前年比+ 8名)

**オ 福岡第一高等学校・第一薬科大学付属高等学校**

(ア) 社会等のニーズに応じたコース設定

福岡第一高等学校では、建築土木の基礎手的事項を習得させるため、令和5年度入学生より建築土木科のコース統合のための、第一薬科大学付属高校では社会・学生のニーズに応じた教育を行うためAIビジネス科を3コース、保育科を2コースに細分化するための学則変更を行った。

(イ) 部活動の成果(全国大会レベル)

a 男子バスケットボール部

全国高等学校バスケットボール選手権大会 優勝  
SoftBank ウインターカップ 2022 準優勝

b ヨット部

全国高等学校総合体育大会女子コンバインド 3位入賞

c 剣道部

玉竜旗高校剣道大会 男子団体準優勝

d テニス部

全国高等学校総合体育大会 ベスト8

e 駅伝部

2022 全国高校駅伝男子競走大会初出場(第19位)

(ウ) 募集の成果、

a 第一高校 令和5年入学者数 711名(前年比+35名)

b 付属高校 令和5年入学者数 232名(前年比+55名)

**カ 第一自動車大学校**

(ア) 所管の国土交通省において自動車整備士制度の見直しが検討されている現状を踏まえ、「一級自動車コース」及び「二級自動車コース」の充実を図ることを目的として「未来型パワーユニットコース」の廃止に関する学則変更を準備した。

(イ) 進路指導は、履歴書作成・面接・企業へのアプローチ方法等について、外部講師や担任

による個人指導を随時行い、卒業生からのバックアップ等のフォロー体制をとることで、9年間連続就職率100%を達成した。

(ウ) 募集の成果

令和5年入学者数 95名(前年比△12名)

#### キ 東京マルチ・AI専門学校

(ア) 学校名を東京マルチ・AI専門学校に変更した事に伴い、各学科PythonプログラミングなどAIの授業が一部学習できるカリキュラムに改めた。

(イ) 学科定員及び学納金等について検討を重ね、令和6年4月施行の学則変更の準備を推進した。

(ウ) 募集の成果

令和5年入学者数 118名(前年比+25名)

#### ク 関東リハビリテーション専門学校

(ア) 国家試験の合格率は理学療法学科88.0%(全国平均87.4%)、作業療法学科57.1%(全国平均83.8%)であった。作業療法学科は、学生の多くが社会人であるため自宅での自己学習を中心であったため、学力不足の学生に対して十分な対策を行うことが出来なかったため、改善する。

(イ) 学校関係者評価委員会を、本校で実施した自己点検をもとに外部の医師、理学療法士、作業療法士、卒業生を招いて、学生と本校の今後につながる建設的なご意見をいただくことが出来た。

(ウ) 募集の成果

令和5年入学者数 54名(前年比+9名)

#### ケ 福岡天神医療リハビリ専門学校

(ア) 国家試験合格率は、理学療法士が95.5%(全国平均87.4%)、作業療法士が100%(全国平均83.8%)、はり師が92.8%(全国平均70.4%)、きゅう師が100%(全国平均71.7%)、柔道整復師が83.3%(全国平均65.4%)であった。

(イ) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学校関係者評価委員会を令和4年6月に書面会議で開催した。自己点検・評価を、書面と電話で意見を交換し、令和5年度の校務運営の資を得た。

(ウ) 募集の成果

令和5年入学者数 138名(前年比△9名)

#### コ お茶の水はりきゅう専門学校

(ア) 補講及び実技実習の効率的な運営を行い、全国平均を上回る合格率:はり師91.7%(全国平均70.4%)、きゅう師91.7%(全国平均71.7%)を達成することができた。

(イ) 徹底した社会人狙いの広報より、イベント参加者数263名、出願者数124名と過去最高の成果であった。専門実践教育訓練給付金の講座指定により、入学者56名のうち39名がその対象者となっており、今後も講座指定を継続させていく。

(ウ) 学校関係者評価委員会を実施し、国家試験の合格率が高い点、不合格者のフォローアップについて高評価を受けた。

(エ) 募集の成果

令和5年入学者数 56名（3年連続100%）

#### サ 名古屋未来工科専門学校

(ア) 就職支援については、早期から学生への意識付けや面接・履歴書指導等、懇切丁寧に細かい指導を行ったことで、日本人学生は就職率100%を達成することができた。

(イ) 卒業生が代表を務める株式会社コプロ・ホールディングスと、「コプロ奨学金制度」「現場教育の支援」「研修支援」等の産学連携協定を締結した。

(ウ) 学校関係者評価委員会で、退学予防策について高い評価を受けるとともに、「留学生の日本語能力向上の習得が必要」との改善意見をいただいた。

留学生の日本語能力向上は、時間外での日本語の授業等により改善していく。

(エ) 募集の成果

令和5年入学者数 70名（前年比△22名）

#### シ 幼稚園・保育園

(ア) みやこ幼稚園園舎の改修

みやこ幼稚園園舎の改修工事を開始し、保育環境を整備中である。

(イ) 募集の成果

みやこ幼稚園 新入園者 43名（前年比△13名）

さわらサクラ幼稚園 新入園者 19名（前年比+7名）

さわらサクラ保育園 新入園者 9名（前年比+4名）

### 3 財務の概要

#### (1) 令和4年度決算の概要

資金収支計算書においては、施設・設備関係支出を前年度比 288 百万円程度削減し、寄付金、受託事業、資産売却等により翌年度繰越支払資金は前年度比約 1,233 百万円増となった。

事業活動収支計算書においては教育活動収入が前年度比約 233 百万円増加、支出が 398 百万円増加し、経常収支差額は前年度比約 154 百万円減少したが、53 百万円となった。

貸借対照表においては、資産の部で所有不動産を売却した。負債の部は借入金の約定返済等により前年度比 621 百万円減少となった。

#### (2) 貸借対照表関係

##### ア 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
固定資産	79,758,134	78,897,267	78,158,284	77,381,481	75,645,178
流動資産	5,839,928	5,149,120	3,510,965	3,754,358	5,097,943
資産の部合計	85,598,062	84,046,387	81,669,249	81,135,839	80,743,122
固定負債	12,522,116	11,629,446	9,704,176	9,068,233	8,404,598
流動負債	3,423,020	3,980,819	3,183,252	3,043,042	3,086,388
負債の部合計	15,945,136	15,610,265	12,887,428	12,111,275	11,490,986
基本金	97,748,197	99,023,874	101,180,164	101,268,965	101,649,295
繰越収支差額	△28,095,271	△30,587,752	△32,398,343	△32,244,400	△32,397,160
純資産の部合計	69,652,926	68,436,122	68,781,821	69,024,565	69,252,135
負債及び純資産の部合計	85,598,062	84,046,387	81,669,249	81,135,839	80,743,122

##### イ 財務比率の経年比較

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
流動比率	170.6%	129.3%	110.3%	126.5%	168.0%
総負債比率	18.6%	18.6%	15.8%	14.9%	14.2%
前受金保有率	426.1%	326.3%	231.2%	282.4%	395.8%
基本金比率	96.8%	98.1%	99.0%	100.7%	98.7%
積立率	14.2%	12.2%	7.9%	8.7%	11.3%

(3) 資金収支計算書関係

ア 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部					
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学生生徒等納付金収入	8,231,848	8,020,566	8,341,234	8,384,425	8,302,830
手数料収入	175,453	166,470	141,335	150,228	140,161
寄付金収入	20,608	13,893	49,547	10,069	57,485
補助金収入	956,246	831,417	1,080,381	1,152,149	1,167,805
資産売却収入	3,086,997	81,601	168	168	866,157
付随事業・収益事業収入	582,398	487,819	394,985	476,032	689,874
受取利息・配当金収入	273	1,873	363	253	254
雑収入	148,683	222,305	194,817	136,161	148,191
借入金等収入	0	200,000	0	0	0
前受金収入	1,306,541	1,486,741	1,350,344	1,240,693	1,196,630
その他の収入	833,145	448,444	245,103	358,557	193,501
資金収支調整勘定	△ 1,606,110	△ 1,598,535	△ 1,831,358	△ 1,566,778	△ 1,551,417
前年度繰越支払資金	2,040,884	5,566,573	4,850,921	3,122,572	3,503,700
収入の部合計	15,776,966	15,929,167	14,817,840	13,464,528	14,715,171

支出の部					
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費支出	4,944,999	5,283,516	5,348,930	5,348,890	5,341,191
教育研究経費支出	2,299,054	2,260,250	2,195,786	2,273,574	2,599,497
管理経費支出	1,391,465	1,322,131	788,895	1,002,116	1,101,873
借入金等利息支出	277,540	260,290	226,925	152,825	139,911
借入金等返済支出	912,288	912,288	2,292,674	621,342	621,342
施設関係支出	212,990	624,904	92,547	237,805	70,934
設備関係支出	275,152	584,289	217,643	240,967	118,780
資産運用支出	10,921	0	0	3,922	0
その他の支出	500,524	663,333	1,025,986	482,877	374,485
資金支出調整勘定	△ 614,540	△ 832,755	△ 455,118	△ 403,490	△ 389,673
翌年度繰越支払資金	5,566,573	4,850,921	3,122,572	3,503,700	4,736,810
支出の部合計	15,776,966	15,929,167	14,817,840	13,464,528	14,715,171

イ 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	9,952,041	9,731,013	10,100,408	10,202,726	10,453,291
教育活動資金支出計	8,563,286	8,863,535	8,292,213	8,621,635	9,039,468
差引	1,388,755	867,478	1,808,195	1,581,092	1,413,822
調整勘定等	△ 6,296	26,299	△ 301,925	△ 144,294	△ 200,049
教育活動資金収支差額	1,382,459	893,777	1,506,270	1,436,797	1,213,773
施設設備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	3,220,275	91,118	59,891	70,447	883,160
施設整備等活動資金支出計	488,142	1,209,193	310,189	478,772	189,734
差引	2,732,133	△ 1,118,075	△ 250,298	△ 408,325	693,426
調整勘定等	7,416	302,587	△ 347,797	20,492	5,216
教育活動資金収支差額	2,739,549	△ 815,488	△ 598,095	△ 387,832	698,642
小計(教育活動資金収支差額+施設設備活動資金収支差額)	4,122,008	78,289	908,175	1,048,965	1,912,415
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	677,311	470,550	65,378	116,389	80,254
その他の活動資金支出計	1,273,543	1,265,613	2,535,906	784,106	764,783
差引	△ 596,232	△ 795,063	△ 2,470,528	△ 667,717	△ 684,530
調整勘定等	△ 87	1,122	△ 165,996	△ 120	5,225
その他の活動資金収支差額	△ 596,319	△ 793,941	△ 2,636,524	△ 667,837	△ 679,305
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	3,525,689	△ 715,652	△ 1,728,349	381,128	1,233,110

ウ 財務比率の経年比較

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動資金収支差額比率	13.9%	9.2%	14.9%	14.1%	11.6%

(4) 事業活動収支計算書関係

ア 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	8,231,848	8,020,566	8,341,234	8,384,425	8,302,830
	手数料	175,452	166,470	141,334	150,228	140,161
	寄付金	20,008	13,893	49,547	11,249	58,545
	経常費等補助金	823,568	821,900	1,020,658	1,081,870	1,150,152
	付随事業収入	552,484	486,831	355,605	442,857	655,308
	雑収入	139,090	238,432	120,802	122,954	119,362
	教育活動収入計	9,942,450	9,748,092	10,029,180	10,193,584	10,426,358
	事業活動支出の部					
	人件費	4,991,013	5,116,872	5,278,747	5,309,953	5,322,742
	教育研究経費	3,290,423	3,255,056	3,162,551	3,222,301	3,535,219
	管理経費	1,593,391	1,589,451	1,041,148	1,235,171	1,328,211
	徴収不能額等	62,518	74,694	74,814	79,436	59,103
教育活動支出計	9,937,345	10,036,073	9,557,260	9,846,862	10,245,275	
教育活動収支差額	5,105	△ 287,981	471,920	346,722	181,083	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息, 配当金	273	1,873	362	253	254
	その他の教育活動収入	29,914	1,440	40,878	36,043	34,565
	教育活動外収入計	30,187	3,313	41,240	36,295	34,819
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	277,540	260,289	226,925	152,825	139,911
	その他の教育活動外支出	71,160	2,160	2,200	22,966	22,966
	教育活動外支出計	348,700	262,449	229,125	175,791	162,877
教育活動外収支差額	△ 318,513	△ 259,136	△ 187,885	△ 139,496	△ 128,058	
経常収支差額		△ 313,408	△ 547,117	284,035	207,226	53,025

		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
特 別 収 支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	409,680	0	168	168	575,507
	その他の特別収入	146,727	21,016	81,514	82,085	25,485
	特別収入計	556,407	21,016	81,682	82,253	600,991
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	2,547,411	690,500	17,838	45,683	91,487
	その他の特別支出	1,070	203	2,181	1,052	334,959
	特別支出計	2,548,481	690,703	20,019	46,735	426,446
	特別収支差額	△1,992,074	△ 669,687	61,663	35,518	174,545
基本金組入前当年度収支差額	△2,305,482	△ 1,216,804	345,698	242,744	227,570	
基本金組入額合計	△1,036,251	△ 1,754,117	△ 3,691,659	△255,643	△380,330	
当年度収支差額	△3,341,733	△ 2,970,921	△ 3,345,961	△12,899	△152,760	
前年度繰越収支差額	△25,034,446	△28,095,271	△30,587,751	△32,398,343	△32,244,400	
基本金取崩額	280,908	478,441	1,535,369	166,842	0	
翌年度繰越収支差額	△28,095,271	△30,587,751	△32,398,343	△32,244,400	△32,379,160	

(参考)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業活動収入計	10,529,044	9,772,421	10,152,104	10,312,132	11,062,169
事業活動支出計	12,834,526	10,989,225	9,806,405	10,069,387	10,834,598

## イ 財務比率の経年変化

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
人件費比率	50.0%	52.5%	52.4%	51.9%	50.9%
教育研究経費比率	33.0%	33.4%	31.4%	31.5%	33.8%
管理経費比率	16.0%	16.3%	10.3%	12.1%	12.7%
事業活動収支差額比率	-21.9%	-12.5%	3.4%	2.4%	2.1%
学生生徒等納付金比率	82.5%	82.3%	82.8%	82.0%	79.4%
経常収支差額比率	-3.1%	-5.6%	2.8%	2.0%	0.5%